

平成 30(2018)年度 シラバス

- 1 年次 -

		授業形態	講義	開講年次	1 年次
授業科目名	心理学		担当教員	谷口 友梨	
基本項目	専 攻	科 目 区 分		単 位 数	
	理学療法学	人文科学系		必 修	2 単位
	作業療法学				
	言語聴覚学				
履修期間	前期（30h）				
授業内容の要約	日常生活場面で生じる人間の心理について学習することで、人間の基本的な心理メカニズムの理解ができるように講義を進める。これにより、対人援助に必要な知見を習得し、医療従事者間や援助要請者とのより良い関係性を築く方法を理解し、現場で応用できることを目指す。				
学修・教育目標 及び到達目標	1. 心理学の基礎的な知識を習得し、理解・説明することができる 2. 日常生活場面で遭遇するさまざまな事象について、心理学の観点から解釈することができる 3. 対人援助に必要なコミュニケーションや支援について、心理学の知識を応用できる				
授業の進め方 学修上の助言	パワーポイントを中心とし、配布資料による講義を実施します。毎講義後に、コミュニケーション・ペーパーを配布し、意見や質問ができるように配慮します。				
授業時間外に必要な学修	予習として、前の週に配布した資料の指定箇所に目を通す。			必要な時間	30 分以上
授業計画	1. イントロダクション 心理学とは？（心理学の考え方・方法論） 2. 知覚・認知の心理学 世界をどう捉えるか？（知覚・錯覚） 3. 記憶の心理学(1) 情報をどう記憶し、利用しているのか？（記憶の種類） 4. 記憶の心理学(2) 情報をどう記憶し、利用しているのか？（記憶のメカニズム・干渉） 5. 社会的行動の心理学(1) 集団内で発生する心理（集団思考） 6. 社会的行動の心理学(2) 他者を説得するには？（コミュニケーション／説得） 7. 社会的行動の心理学(3) 他者をどう理解するか？（原因帰属） 8. 行動と学習の心理学(1)（学習理論・レスポナント条件づけ） 9. 行動と学習の心理学(2)（学習理論・オペラント条件づけ） 10. 発達心理学(1) 人が生まれて死ぬまで（ピアジェ・愛着・心の理論） 11. 発達心理学(2) 人が生まれて死ぬまで（エリクソン・ライフサイクル論・アイデンティティ） 12. 臨床心理学 悩みのある人を助ける（アセスメント・カウンセリング・精神分析） 13. 医療心理学(1) 患者と医療従事者との関係を考える（ストレス・バーンアウト） 14. 医療心理学(2) 患者と医療従事者との関係を考える（患者の心的プロセス） 定 期 試 験 15. 総括及びフィードバック（定期試験の解答・解説）				
成績評価方法	項目	■課題・小テスト 30%	□レポート %	■定期試験 70%	□その他 %
	内 容	毎回の授業の理解の確認のために小テストを実施する。		定期試験を実施する。授業の内容全般についての理解度を評価する。	
教科書	著者	タイトル		出版社	発行年
参考文献	武藤隆ほか	「心理学 (New Liberal Arts Selection)」		有斐閣	2004
履修要件等	特になし				
研究室	1 号館 1 階 非常勤講師控室		オフィスアワー	授業終了後、質問を受け付ける	

		授業形態	講義	開講年次	1 年次
授業科目名	医療倫理学		担当教員	雨宮 徹	
基本項目	専 攻	科 目 区 分		単 位 数	
	理学療法学	人文科学系		選択必修	2 単位
	作業療法学				
	言語聴覚学				
履修期間	後期 (30h)				
授業内容の要約	「倫理」とは、人間の仲間のあいだで守るべきルールのことである。本講義では、医療に関わるさまざまな倫理的テーマに即して、「良き医療人」としてどうあるべきなのか、何をすべきなのか、何をすべきではないのかについて考えていく。				
学修・教育目標 及び到達目標	1. 医療従事者として配慮すべき事柄が理解できる 2. 単に「憶える」のではなく、提示されているテーマを自分の問題として「考える」ことができる				
授業の進め方 学修上の助言	板書を中心とした授業であるが、随時グループワークを行う。受講生は終わりの 10 分に講義内容に関するコメントを書いて提出する。				
授業時間外に必要な学修	講義中に示す参考資料（書籍、映画、マンガ）の参照			必要な時間	60 分以上
授業計画	1. cure と care ① (cure と care)				
	2. cure と care ② (自然科学的人間観と cure)				
	3. cure と care ③ (医療の公共化と cure)				
	4. cure と care ④ (care の特徴)				
	5. cure と care ⑤ (care とリハビリテーション)				
	6. 人権と人格 ① (人権と人格)				
	7. 人権と人格 ② (人権思想一般の歴史)				
	8. 人権と人格 ③ (医療における人権思想の展開)				
	9. 人権と人格 ④ (カントと「人格の尊厳」)				
	10. 人権と人格 ⑤ (「目的そのもの」としての尊厳)				
	11. 意味と幸福 ① (ニヒリズムについて)				
	12. 意味と幸福 ② (幸福追求のパラドックスについて)				
	13. 意味と幸福 ③ (自己超越の実践について)				
	14. 意味と幸福 ④ (根本的ニヒリズムの克服について)				
	定 期 試 験				
	15. 総括及びフィードバック（定期試験の解答・解説）				
成績評価方法	項目	□課題・小テスト %	□レポート %	■定期試験 100 %	□その他 %
	内 容			論述形式。試験問題および採点基準は講義の終盤に提示する。	
教科書	著者	タイトル		出版社	発行年
	特になし。				
参考文献	加藤尚武篇	「生命倫理学を学ぶ人のために」		世界思想社	1998
	フランクフル	「それでも人生にイエスという」		春秋社	1993
履修要件等	特になし。				
研究室	1 号館 4 階 第 6 研究室		オフィスアワー	毎週水曜日 13：00～14：30	

		授業形態	講義	開講年次	1 年次
授業科目名	医療哲学	担当教員	雨宮 徹		
基本項目	専 攻	科 目 区 分		単 位 数	
	理学療法学	人文科学系		選択必修	2 単位
	作業療法学				
	言語聴覚学				
履修期間	後期（30h）				
授業内容の要約	哲学は、自分の納得の感覚に従い「考える」ことを徹底して行う学問である。そのためにまず必要なのは、対象を正確に把握することであり、次にそこに自分の疑問を投げ込むことである。本授業では医療に関わる問題を題材とし、「考える」力向上のためのトレーニングを行う。				
学修・教育目標 及び到達目標	1. 講読したテキストの内容を、自分の言葉で説明できる 2. グループワークを通じて、自分の考えを言語化できる				
授業の進め方 学修上の助言	「グループディスカッション」→「図化」→「発表」を毎時間実施する。 予習（講読範囲の図化）をして来ない場合は、出席として認めない。				
授業時間外に必要な学修	予習（講読範囲の図化）			必要な時間	60 分以上
授業計画	1. オリエンテーション（「べてるの家」のビデオ視聴） 2. 「べてるの家」について 3. 形から入れ（1） pp.11-21 4. 形から入れ（2） pp.22-32 5. 専門家に何ができるか（1） pp.33-39 6. 専門家に何ができるか（2） pp.40-48 7. 信じるということ（1） pp.49-57 8. 信じるということ（2） pp.58-84 9. 「聴かないこと」の力（1） pp.85-93 10. 「聴かないこと」の力（2） pp.94-118 11. 人と問題を分ける（1） pp.119-130 12. 人と問題を分ける（2） pp.131-140 13. 病識より問題意識 pp.141-154 14. プライバシー、何が問題か pp.155-178 定 期 試 験（レポ ー ト） 15. 総括及びフィードバック（定期試験の解答・解説）				
成績評価方法	項目	□課題・小テスト		■レポート 100 %	
	内容			A4 用紙でテキストの まとめ 2 枚、考察 1 程度。	
教科書	著者	タイトル			出版社
	向谷地生良	「技法以前ーべてるの家のつくり方」			医学出版
参考文献	齋藤孝	「頭がよくなる図化思考法」			SB 新書
履修要件等					
研究室	1 号館 4 階 第 6 研究室	オフィスアワー	毎週水曜日 13：00～14：30		

		授業形態	講義	開講年次	1 年次
授業科目名	社会学		担当教員	野村 和樹	
基本項目	専攻	科目区分		単位数	
	理学療法学	社会科学系		選択必修	2 単位
	作業療法学				
	言語聴覚学				
履修期間	前期 (30h)				
授業内容の要約	「社会学とはどのような学問であるのか」という問いに答えを見つけられるように講義を進める。社会学の視点や方法論を理解するために古典的学説やいくつかの社会現象へのアプローチを紹介する。事例を用いて社会学的アプローチを実際に試みる。				
学修・教育目標 及び到達目標	1. 社会学の成り立ちから様々な学説が生まれた過程を理解することができる 2. 人間の行動と環境との関係を社会的な視点で見ることができる 3. 日常的な社会現象を社会的な問題として捉えることができる				
授業の進め方 学修上の助言	基本的には、講義形式で授業を進める。教科書は用いずレジュメを配布し授業を進めるので、A4 版のファイルを用意すること。				
授業時間外に必要な学修	単元毎に要点の整理をされることが望ましい。			必要な時間	30 分以上
授業計画	1. イントロダクションー社会学とは 2. 社会学の歴史と展開Ⅰ（社会学の命名から社会学への歩み） 3. 社会学の歴史と展開Ⅱ（実証科学としての社会学の確立） 4. 実証科学としての「社会学」黎明期における主要な人々とその思想Ⅰ（デュルケームの社会学） 5. 実証科学としての「社会学」黎明期における主要な人々とその思想Ⅱ（ウェーバーの社会学） 6. 都市を知るⅠ（シカゴにおける社会学の展開） 7. 都市を知るⅡ（シカゴ学派） 8. 非行と社会病理 9. ラベリング論 10. 逸脱行動Ⅰ（逸脱の原因をさぐる） 11. 逸脱行動Ⅱ（支援方法をさぐる） 12. 子どもが育つ環境について分析する 13. 社会的な事象について事例を用いて分析する（非行について） 14. 科学が支える子ども被害の防止 定期試験 15. 総括及びフィードバック（定期試験の解答・解説）				
成績評価方法	項目	■課題・小テスト 30%	□レポート %	■定期試験 70%	□その他 %
	内容	単元終了字に講義内小テストを実施 (5回程度)		全般に渡る範囲から理解度ををはかる。	
教科書	著者	タイトル		出版社	発行年
	各項目に応じてレジュメを配布する。				
参考文献	講義内で適宜紹介する。				
履修要件等					
研究室	1 号館 4 階第 1 研究室		オフィスアワー	毎週木曜日 12:10～13:00	

			授業形態	講義	開講年次	1 年次
授業科目名	社会福祉学		担当教員	野村 和樹		
基本項目	専攻	科目区分		単位数		履修期間
	理学療法学	社会科学系		選択必修	2 単位	後期（30h）
	作業療法学					
	言語聴覚学					
授業内容の要約	学生が自ら“他者を支援すること”を学びとれるよう、人間の尊厳や権利について、考え理解できるように試みる。また、人間の尊厳が現代社会においていかに尊重されているのかを、福祉の制度施策に照らし合わせて考える。その上で、社会福祉における価値観や倫理、人権意識、思想、歴史などを体系的に学び理解する。					
学修・教育目標 及び到達目標	1. 人間の尊厳と権利について理解できる 2. 社会福祉に関わる制度施策が理解できる 3. 各種の福祉サービスを理解し社会資源として活用できる					
授業の進め方 学修上の助言	講義形式で授業を進める。教科書は用いずレジュメを配布し授業を進めるので、A4 版のファイルを用意すること。					
授業時間外に必要な学修	各回、それぞれ授業後に要点の整理をされることが望ましい。			必要な時間	30 分以上	
授業計画	1. 社会福祉とは 2. 現代社会における問題と福祉 3. 児童に見る権利の変遷と社会の歴史Ⅰ 社会の負担としての児童から労働力としての児童 4. 児童に見る権利の変遷と社会の歴史Ⅱ 次代の国身としての児童から権利の主体としての児童 5. 児童領域における社会福祉とは 6. 児童福祉のおこり 7. 児童に関わる社会福祉の制度・施策 8. 今日の児童に関わる問題 9. ライフサイクルと社会福祉 10. 障がい者の福祉とは 11. 障がい者福祉における制度・施策Ⅰ （身体障害者福祉法、知的障害者福祉法、精神保健福祉法等） 12. 障がい者福祉における制度・施策Ⅱ（障害者基本法、障害者総合支援法等） 13. 高齢期の社会福祉とは 14. 介護保険制度と高齢者福祉 定期試験 15. 総括及びフィードバック（定期試験の解答・解説）					
成績評価方法	項目	■課題・小テスト 30%	□レポート %	■定期試験 70 %	□その他 %	
	内容	単元終了字に講義内小テストを実施（5回程度）		全般に渡る範囲から理解度ををはかる。		
教科書	著者	タイトル		出版社	発行年	
参考文献	各項目に応じてレジュメを配布する。					
履修要件等	講義内で適宜紹介する。					
研究室	1 号館 4 階 第 1 研究室		オフィスアワー	毎週水曜日 12:10～13:00		

				授業形態	講義	開講年次	1 年次		
授業科目名		医療経営学		担当教員	村川 浩一、鎌田 香織				
基本項目	専 攻	科 目 区 分			単 位 数		履修期間		
	理学療法学	社会科学系			選択必修	2 単位	後期（30h）		
	作業療法学								
	言語聴覚学								
授業内容の要約		医療・福祉・教育など、対人サービス領域に共通する構造と課題を把握する。 少子高齢化・人口減少が進行する日本・地域社会において、医療・介護等のサービス特性を正しくふまえ、国民のニーズ・社会的要請に応えるべく、医療経営の本質と枠組みを習得する。							
学修・教育目標 及び到達目標		1. 医療経営の基本的事項から、医療経営をとりまく関連事項まで幅広く学習することができる 2. 基礎から応用分野までを包括的に探究し、医療機関だけでなく行政、福祉施設・地域福祉活動、医療関連ビジネスなどを理解し、この分野の経営管理に携わる資質を獲得することができる 3. 医療機関の経営・管理に関連し、マネジメントの視点を理解することができる							
授業の進め方 学修上の助言		・当日の授業等について、リアクションペーパーの記入を求める。 ・毎回数種類の資料を配布するので、保管用のファイルを用意すること。 ・講義を中心に進行するが、論点を明らかにするため小グループ討論を行う（数回）。							
授業時間外に必要な学修		復習をしっかりと行うこと。				必要な時間	60 分以上		
授業計画		1. 序：医療経営とは何か、講義のすすめ方、その他 2. 社会保障の歴史・制度 ― 日本の課題、海外の動向 3. 医療経営と政策動向（その 1）国民の保健医療行動とニーズ 4. 医療経営と政策動向（その 2）5 大国民病・地域医療の焦点 5. 医療経営と政策動向（その 3）医療保険・診療報酬制度 6. 医療計画の展開（その 1）大阪府保健医療計画、泉州医療圏 7. 医療計画の展開（その 2）和歌山県保健医療計画、へき地医療 8. 医療計画の展開（その 3）兵庫県保健医療計画、リハシステム 9. 医療と介護の連携（その 1）高齢者のリハビリと介護支援 10. 医療と介護の連携（その 2）障害者のリハビリと就労支援等 11. 医療政策の動向（その 1）医療構想・地域包括ケアシステム 12. 医療政策の動向（その 2）医療サービス質向上・リスクマネジメント 13. 地域医療の諸問題（その 1）診療報酬リハビリテーション関係 14. 地域医療の諸問題（その 2）病院・診療所の経営課題 定 期 試 験（レ ポ ー ト） 15. 結：医療経営をめぐる課題と方向 ― リハビリテーション中心に							
成績評価方法	項目	□課題・小テスト %		■レポート 70%		□定期試験 %		■その他 30%	
	内 容			与えられた課題を講義内容の視点と絡めて深く考察しているかどうかを評価する				リアクションペーパーの記入（コメント・感想など）	
教科書		著者	タイトル			出版社		発行年	
		厚生労働統計協会	「国民衛生の動向 2018/2019」			厚生労働統計協会		2018	
参考文献		上田敏	「リハビリテーションを考える」			青木書店		1980	
		澤村誠志 ほか	「リハビリテーション白書 3」			三輪書店		2013	
		西村周三 ほか	「医療白書」			日本医療企画		2014	
		吉原健二 ほか	「医療経営白書」			日本医療企画		2014	
履修要件等									
研究室		1 号館 1 階 非常勤講師控室			オフィスアワー	授業終了後、質問を受け付ける			

		授業形態	実習	開講年次	1 年次
授業科目名	情報処理学入門		担当教員	雨宮 徹 ・ 野村 和樹	
基本項目	専 攻	科 目 区 分		単 位 数	
	理学療法学	自然科学系		必 修	1 単位
	作業療法学				
	言語聴覚学				
履修期間	前期 (30h)				
授業内容の要約	通常授業の課題作成のレベルから、実習のまとめ、卒業論文作成のレベルに至るまで、大学生活のあちこちで必要となってくる、メーラー、ブラウザ、ワープロ・ソフト、表計算ソフト、プレゼンテーション・ソフトの基本的な仕組みと操作を身につけることを目的とする。				
学修・教育目標 及び到達目標	1. 学内のネット環境を活用できる 2. 基本的なソフトを使うことができる 3. 学修・研究活動における基本的な情報処理ができる				
授業の進め方 学修上の助言	実際にパソコン操作をしながら、授業を行う。雨宮と野村で分担する。教科書は特に指定せず、資料は授業内で配布する。第1回目、第2回目の授業には携帯電話を持って来ること。				
授業時間外に必要な学修	タイピングの練習、課題の作成			必要な時間	30 分以上
授業計画	1. CALL 教室の使用方法、学内メールの設定、タッチ・タイピング練習（雨宮） 2. メール の書き方①（雨宮） 3. メール の書き方②（雨宮） 4. ワープロ・ソフトの使い方①（雨宮） 5. ワープロ・ソフトの使い方②（雨宮） 6. ワープロ・ソフトの使い方③（雨宮） 7. メール + ワープロ・ソフトの使い方（雨宮） 8. 中間試験、総括（雨宮） 9. 表計算ソフトの使い方①（野村） 10. 表計算ソフトの使い方②（野村） 11. ブラウザ + 表計算ソフトの使い方①（野村） 12. ブラウザ + 表計算ソフトの使い方②（野村） 13. プレゼンテーション・ソフトの基本①（野村） 14. プレゼンテーション・ソフトの基本②（野村） 15. プレゼンテーション・ソフトの基本③（野村）				
成績評価方法	項目	■課題・小テスト 100%	□レポート %	□定期試験 %	□その他 %
	内 容	評価は、前半（雨宮担当）の8回目に行われる実技試験の成績と、後半の課題の成績とを合計して行う。			
教科書	著者	タイトル		出版社	発行年
	特になし				
参考文献	特になし				
履修要件等	特になし				
研究室	野村：1 号館 4 階 第1 研究室 雨宮：1 号館 4 階 第6 研究室		オフィスアワー	野村：毎週水曜日 12：10～13：00 雨宮：毎週水曜日 13：00～14：30	

		授業形態	実習	開講年次	1 年次
授業科目名	情報処理学応用		担当教員	濱 裕光	
基本項目	専 攻	科 目 区 分		単 位 数	
	理学療法学	自然科学系		必 修	1 単位
	作業療法学				
	言語聴覚学				
履修期間	後期（30h）				
授業内容の要約	パーソナル・コンピュータ（PC）は、データの収集、蓄積、加工、分析に必要な不可欠なアイテムのひとつである。本講義では、代表的な表計算ソフトウェアである Excel の操作方法を学び、統計の基本的な処理ができるようになる。				
学修・教育目標 及び到達目標	1. 代表的な表計算ソフトウェアである Excel の操作方法を身につける（授業の難易度、中程度） 2. 基本的な統計処理ができる 3. 数値の羅列からは見えなかった本質の「見える化」のための道具の存在に気付く				
授業の進め方 学修上の助言	実技形式にて、表計算ソフト Excel を操作しながら、統計処理の基本の習得を目指す。 毎回配布するプリントとエクセルファイルに沿って実際に入力することで理解を深める。 エクセルの高機能、便利さに感動し、エクセルを使う楽しさを実感して欲しい。				
授業時間外に必要な学修	授業中に配布する資料を基に復習し、理解度を深める。			必要な時間	30 分以上
授業計画	1. エクセル基本操作（教科書 p1～20）（画面の各部の名称と役割、基本操作） 2～3. エクセル入門 ①（教科書 p21～41）（「家計簿」で学ぶ 表作りと表計算の基礎） 4. エクセル入門 ②（教科書 p58～62）（データの整理と活用、思い通りの印刷テクニック） 5～6. エクセル入門 ③（教科書 p63～73）（「請求書」で学ぶ 表計算の応用と関数） 7. エクセル入門 ④（教科書 p77～85）（知って得する実用便利技集、論理関数） 8. エクセル入門 ⑤（教科書 p86～91）（魅せるグラフでデータを活かす） 9. エクセル入門 ⑥（ピボットテーブル）（異なる視点からデータを眺めよう） 10. 中 間 試 験 11. エクセルを用いた統計処理 ①（参考書 ^(*) 第 5、6 章）（基礎統計量、時系列は滑らかに） 12. エクセルを用いた統計処理 ②（参考書 ^(*) 第 7 章）（相関係数で 2 人の相性を） 13. エクセルを用いた統計処理 ③（参考書 ^(*) 第 8 章）（消防署からの距離と火災時の損害額） 14. エクセルを用いた統計処理 ④（参考書 ^(*) 第 9 章）（ウェイトレスの平均時給） 定 期 試 験 15. 総括及びフィードバック（定期試験の解答・解説）				
成績評価方法	項目	□課題・小テスト %	□レポート %	■定期試験 80 %	■その他 20 %
	内 容			エクセルと統計処理に分けて、中間試験と後期試験を実施し、理解度の確認を行う。	出席および授業態度などの総合評価
教科書	著者	タイトル		出版社	発行年
	金矢八十男 ほか	「500 円でわかるエクセル 2016 （コンピュータムック 500 円シリーズ）」		学研パブリッシング	2016
参考文献	室淳子、石村貞夫	「Excel でやさしく学ぶ統計解析」 ^(*)		東京出版	2004
	山田 覚	「医療・看護のためのやさしい統計学 基礎編」		東京図書	2005
履修要件等					
研究室	1 号館 1 階 非常勤講師控室		オフィスアワー	授業終了後、質問を受け付ける	

			授業形態	講義	開講年次	1 年次
授業科目名	生物学		担当教員	中村 美砂		
基本項目	専攻	科目区分		単位数		履修期間
	理学療法学	自然科学系		必修	2 単位	前期 (30h)
	作業療法学					
	言語聴覚学					
授業内容の要約	iPS 細胞で代表されるように生物学は現在、急速に進展しており、私たちの健康や病気の治療とも密接に関係している。授業では、「人」に焦点をあてた生命科学を内容とし、人の生命維持機構のもつ法則性・論理性について理解することを目標とする。					
学修・教育目標 及び到達目標	1. 体の構成単位である細胞の構造と機能について説明できる 2. 体の中の物質代謝や情報伝達のしくみが説明できる 3. 遺伝子の構造と機能が説明できる					
授業の進め方 学修上の助言	教科書と配布プリントに沿って行う。					
授業時間外に必要な学修	授業前は、指定された範囲の教科書を予め読んでおくこと。授業後は、「生物学ノート」を作成するなどして復習を十分行うこと。				必要な時間	30 分以上
授業計画	1. 体をつくる分子にはどのようなものがあるか (教科書 pp29～pp37) 2. 生命とはなにか、生物とはどのようなものか (教科書 pp10～pp18) 3. 細胞とはどのようなものか (教科書 pp19～pp25) 4. 細胞はどのように増えるか (教科書 pp26～pp28) 5. ヒトの体はどのようにできているか (教科書 pp59～pp67) [小テスト①] 6. 体の恒常性はどのように維持されるか (教科書 pp87～pp97) 7. ヒトは病原体とどのようにたたかうか (教科書 pp98～pp106) 8. 体の中で物質はどのように変化するかⅠ (教科書 pp38～pp45) [小テスト②] 9. 体の中で物質はどのように変化するかⅡ (教科書 pp38～pp45) 10. エネルギーはどのように獲得されるか (教科書 pp68～pp76) 11. 遺伝子と遺伝はどのように関係しているか (教科書 pp47～pp58) [小テスト③] 12. 遺伝子と体はどのように関係しているか (教科書 pp47～pp58) 13. 遺伝子は医療にどのように関わっているか (教科書 pp47～pp58) 14. ヒトはどのように次の世代を残すか (教科書 pp107～pp116) 定期試験 15. 総括及びフィードバック (定期試験の解答・解説)					
成績評価方法	項目	■課題・小テスト 20%		□レポート %	■定期試験 80%	□その他 %
	内容	指定した講義の内容について小テスト (3回)を実施し、理解度を評価する。			全講義の内容についての理解度を評価する。	
教科書	著者	タイトル		出版社		発行年
	八杉貞雄	「ヒトを理解するための生物学」		裳華房		2013
参考文献	小林直人ほか	「まるわかり！基礎生物」		南山堂		2014
	巖佐庸 ほか	「生物学辞典 第5版」		岩波書店		2013
履修要件等						
研究室	1 号館 5 階 第 10 研究室		オフィスアワー	毎週月曜日 13:00～14:30		

				授業形態	講義	開講年次	1 年次	
授業科目名		医療系の力学		担当教員	小峯 武陸			
基本項目	専 攻	科 目 区 分			単 位 数		履修期間	
	理学療法学	自然科学系			必 修	2 単位	前期（30h）	
	作業療法学							選択必修
	言語聴覚学							
授業内容の要約		リハビリテーション領域におけるチームアプローチを学ぶために最も必要な基礎知識と考え方を講義・実演形式で学ぶことができる。さらに今後の専門性を効率的に学習するために不可欠な前段階の領域を理解することができる。						
学修・教育目標 及び到達目標		1. 身近な自然科学について体験学習を通じ、理解を深めること 2. 体験学習で興味のある内容をより深く学習すること 3. 身体運動に関する基礎的な力学について説明ができること						
授業の進め方 学修上の助言		・座席を指定し、出席管理を行う。 ・私語、居眠り、スマホの使用など授業にふさわしくない態度・行動には厳しく対応する。 ・「自己振り返り」を通じて学習目標への到達を目指す。						
授業時間外に必要な学修		授業で学んだ復習			必要な時間	60 分以上		
授業計画		1. 総論 自然科学に存在する単位について【武井】：国際単位系 2. 伝導と伝達について（糸電話を体験しよう）【小峯】：伝える 3. 音と聞こえの不思議Ⅰ【馬屋原】：周波数 4. 音と聞こえの不思議Ⅱ【芦塚】：聞こえにくさ 5. 地球と月の違い【岡】：物の大きさ 6. 性質の違いによる重さ感覚の違い【小峯】：物の密度 7. 体性感覚と視覚の役割【南】：生活に必要 8. 重力と身体について【亀田】：寝たきりとは 9. 抗重力活動とは【武井】：筋活動 10. やじろべえはなぜ倒れない【橋本】：中心の意味 11. テコの働きを利用した生活用品【武井】：支点とは 12. 運動を伝える【小峯】：ジェスチャー 13. ジェットコースターとフリーホールの違いとは【岡】：重力の方向 14. 身近なエネルギーの変換【南】：生活活動 定 期 試 験 15. 総括及びフィードバック（定期試験の解答・解説）						
成績評価方法	項目	■課題・小テスト 20%		■レポート 20%		■定期試験 60%		□その他 %
	内 容	各授業内レポート		1～14 回までのまとめ		理解度を評価する。		
教科書		著者		タイトル		出版社		発行年
		特になし						
参考文献								
履修要件等								
研究室		1 号館 4 階 第 3 研究室			オフィスアワー	毎週木曜日 12：10～13：00		

			授業形態	講義	開講年次	1 年次
授業科目名	英文法		担当教員	パトリック・ポーレン		
基本項目	専 攻	科 目 区 分		単 位 数		履修期間
	理学療法学	外国語系		必 修	1 単位	前期 (30h)
	作業療法学					
	言語聴覚学					
授業内容の要約	This course will clearly present the important aspects of English grammar, especially that of the “subject + verb,” which is the basis for English composition. This will help students in their future study of medical dissertations.					
学修・教育目標 及び到達目標	1. The study of the basics of English—“Subject + Verb” 2. Confirming the exchange of information in English 3. Reading and understanding of elementary texts, especially concerning the medical field					
授業の進め方 学修上の助言	1. Studying and completing the activities presented in the text 2. Studying supplemental material, especially readings concerning medical issues 3. Regularly scheduled quizzes to ensure mastery of the skills practiced in class					
授業時間外に必要な学修	15 hrs.			必要な時間	60 分以上	
授業計画	1. ”Be” Verb 2. Simple Present Tense 3. Simple Past Tense 4. Pronouns 5. Prepositions 6. Progressive Tenses 7. Nouns and Articles 8. Modals 9. Suggestions and Commands 10. Simple Future Tense 11. Questions Words and Tag Questions 12. Adjectives 13. Comparatives 14. Adverbs 定 期 試 験 15. Infinitives 総括及びフィードバック（定期試験の解答・解説）					
成績評価方法	項目	■ 課題 50%	□レポート %	□定期試験 %	■ 小テスト 50%	
	内容	Homework will be assigned and checked weekly.			授業内の小テスト (14 回)を実施し、授業の内容についての理解度を 評価する。	
教科書	著者	タイトル		出版社		発行年
	Bennett; Komiya	“Grammar Plus”		Nan’un-do		2013
参考文献	None.					
履修要件等	Please come fully prepared to each class meeting.					
研究室	1 号館 1 階 非常勤講師控室		オフィスアワー	授業終了後、質問を受け付ける		

		授業形態	講義	開講年次	1 年次
授業科目名	英文講読(PT)		担当教員	戴内 昭男	
基本項目	専 攻	科 目 区 分		単 位 数	
	理学療法学	外国語系		必 修	1 単位
授業内容の要約	医学・医療関係の英語の文書ないし音声で発信される情報を理解し、また自ら英語で情報を発信する能力を養う				
学修・教育目標 及び到達目標	1. 医療英語の文献を読解することができる 2. 医療英語の文献を正しく音読することができる 3. 英語を聴いて理解することができる				
授業の進め方 学修上の助言	1. 本文のリスニングと合同読みの練習 2. 各学生による音読と和訳 3. 教師による和訳の確認と文法・語法の説明				
授業時間外に必要な学修	指定された範囲の英文を読み、練習問題をしていくこと。			必要な時間	60 分以上
授業計画	1. Unit 11 Physical Therapy. 教科書 pp.46-47. 2. Unit 11 Physical Therapy. 教科書 pp.48-49. 3. Unit 12 Working Occupational Therapy. 教科書 pp.50-51. 4. Unit 12 Working Occupational Therapy. 教科書 pp.52-53. 5. Unit 13 Speech-Language Therapy as a Vocation. 教科書 pp.54-55. 6. Unit 13 Speech-Language Therapy as a Vocation. 教科書 pp.56-57. 7. Unit 14 Orthoptics and Visual Science. 教科書 pp.58-59. 8. Unit 14 Orthoptics and Visual Science. 教科書 pp.60-61. 9. Unit 15 Why Is Team Medical Treatment Necessary. 教科書 pp.62-63. 10. Unit 15 Why Is Team Medical Treatment Necessary. 教科書 pp.64-65. 11. Unit 1 The Human Body. 教科書 pp.6-7. 12. Unit 1 The Human Body. 教科書 pp.8-9. 13. Unit 2 Nutrition and Fitness. 教科書 pp.10-11. 14. Unit 2 Nutrition and Fitness. 教科書 pp.12-13. 定 期 試 験 15. 総括・レビュー				
成績評価方法	項目	■課題・小テスト 30%	□レポート %	■定期試験 60%	■その他 10%
	内 容	重要表現・語彙の小テストを随時行う		学習した範囲の、主に英文和訳	授業態度・積極性・class contribution
教科書	著者	タイトル		出版社	発行年
	Masahiko Takatsu 他	The Hospital Team		南雲堂	2010
参考文献	随時指示				
履修要件等	予習をしていくこと。(電子) 辞書を持ってくること。				
研究室	1 号館 1 階 非常勤講師控室		オフィスアワー	授業終了後、質問を受け付ける	

		授業形態	講義	開講年次	1 年次
授業科目名	英文講読(OT/ST)		担当教員	藪内 昭男	
基本項目	専 攻	科 目 区 分		単 位 数	
		外国語系		必 修	1 単位
	作業療法学				
	言語聴覚学				
履修期間			後期 (30h)		
授業内容の要約	医学・医療関係の英語の文書ないし音声で発信される情報を理解し、また自ら英語で情報を発信する能力を養う。				
学修・教育目標 及び到達目標	1. 医療英語の文献を読解することができる 2. 医療英語の文献を正しく音読することができる 3. 英語を聴いて理解することができる				
授業の進め方 学修上の助言	1. 本文のリスニングと合同読みの練習 2. 各学生による音読と和訳 3. 教師による和訳の確認と文法・語法の説明				
授業時間外に必要な学修	指定された範囲の英文を読み、練習問題をしていくこと。			必要な時間	60 分以上
授業計画	1. Unit 12 Working Occupational Therapy. 教科書 pp.50-51. 2. Unit 12 Working Occupational Therapy. 教科書 pp.52-53. 3. Unit 13 Speech-Language Therapy as a Vocation. 教科書 pp.54-55. 4. Unit 13 Speech-Language Therapy as a Vocation. 教科書 pp.56-57. 5. Unit 11 Physical Therapy. 教科書 pp.46-47. 6. Unit 11 Physical Therapy. 教科書 pp.48-49. 7. Unit 14 Orthoptics and Visual Science. 教科書 pp.58-59. 8. Unit 14 Orthoptics and Visual Science. 教科書 pp.60-61. 9. Unit 15 Why Is Team Medical Treatment Necessary. 教科書 pp.62-63. 10. Unit 15 Why Is Team Medical Treatment Necessary. 教科書 pp.64-65. 11. Unit 1 The Human Body. 教科書 pp.6-7. 12. Unit 1 The Human Body. 教科書 pp.8-9. 13. Unit 2 Nutrition and Fitness. 教科書 pp.10-11. 14. Unit 2 Nutrition and Fitness. 教科書 pp.12-13. 定 期 試 験 15. 総括・レビュー				
成績評価方法	課題	■課題・小テスト 20%	□レポート %	■定期試験 70%	■その他 10%
	内容	重要表現・語彙の 小テストを随時行う		学習した範囲の、 主に英文和訳	授業態度・積極性・ Class Contribution
教科書	著者	タイトル		出版社	発行年
	Masahiro Takatsu 他	The Hospital Team		南雲堂	2010
参考文献	随時指示				
履修要件等	予習をしていくこと。(電子) 辞書を持ってくること。				
研究室	1 号館 1 階 非常勤講師控室		オフィスアワー	授業終了後、質問を受け付ける	

			授業形態	講義	開講年次	1 年次
授業科目名	英会話		担当教員	パトリック・ポーレン		
基本項目	専 攻	科 目 区 分		単 位 数		履修期間
	理学療法学	外国語系		選択必修	2 単位	後期（30h）
	作業療法学					
	言語聴覚学					
授業内容の要約	This English conversation course will build student confidence and improve overall English speaking and listening proficiency through enjoyable in-class oral activities. Moreover, this course will provide the proper foundation for future English study.					
学修・教育目標 及び到達目標	1. Homework Check 4. Dialogue Practice 7. Review 2. In-class Quizzes 5. Oral Pair Work Practice 3. Warm-up 6. Oral Whole Class Practice					
授業の進め方 学修上の助言	Students should come to every class and practice enthusiastically. They should also do each homework assignment neatly and completely.					
授業時間外に必要な学修	15 hrs.				必要な時間	60 分以上
授業計画	1. Introductions, explanation of the course and student responsibilities 2. Getting to know each other, “Language of Control” 3. Greetings and leave-takings, Asking for and giving information about one's family 4. Asking and answering questions about abilities 5. Asking and answering questions about times and dates 6. Understanding personal schedules. Making appointments. Comparing routines. 7. Asking for, giving, and understanding map directions, describing stores and their services. 8. Review of Weeks 1-7 9. Describing people, identifying people based on physical features 10. Discussing and comparing with others one's preferences. Talking about favorite things 11. Asking about and giving information about one's future plans and activities. 12. Discussing past activities and talking about weekends 13. Ordering a meal at a restaurant, comparing and describing western and Japanese food 14. Talking about culture and places in Japan, talking about one’s vacation plans 15. Final review, Short lecture: How to continue studying English					
成績評価方法	項目	■課題 50%		□レポート %	□定期試験 %	■ 小テスト 50%
	内容	Homework will be assigned and checked weekly.				授業内の小テスト (14 回)を実施し、授業の内容についての理解度を評価する。
教科書	著者	タイトル			出版社	発行年
	Wilson and Barnard	“Fifty-fifty: A speaking and listening course, Book 1, Third Edition”			Pearson ELT	2007
参考文献	None					
履修要件等	Please come fully prepared to each class meeting.					
研究室	1 号館 1 階 非常勤講師控室		オフィスアワー	授業終了後、質問を受け付ける		

		授業形態	実技	開講年次	1 年次
授業科目名	スポーツ実技 A		担当教員	中村 俊介	
基本項目	専 攻	科 目 区 分		単 位 数	
	理学療法学	健康体育系		選択必修	1 単位
	作業療法学				
	言語聴覚学				
授業内容の要約	道具やルールを少し変えるだけで、誰もが楽しめるようになることを体験し、スポーツの喜びや面白さの要点を理解する。ニュースポーツなどの実践を通じ、心身の変化や技能の向上を体験し、自分に適した活動を見つけ、生涯スポーツに向けて主体的に健康と体力を維持増進する能力を養う。				
学修・教育目標 及び到達目標	1. 身体運動やスポーツの実践を通して、心身の変化や技能の向上を体験する 2. 生涯スポーツにおける自らの役割を認識する 3. 集団行動における自らの特性を知る				
授業の進め方 学修上の助言	実技形式にて、様々な種目を体験する。履修学生が極端に少ない・多い場合は、実施種目を若干変更する。運動の出来る服装、運動靴で参加すること。				
授業時間外に必要な学修	事前にニュースポーツのルールを調べて参加する。			必要	30 分以上
授業計画	1. オリエンテーション（受講方法、記念講堂の使用について、など） 2. ニュースポーツ①（インディアカ：パス回しが出来るようになる） 3. ニュースポーツ②（インディアカ：アタックが出来るようになる） 4. ニュースポーツ③（インディアカ：試合での動き方を習得する） 5. ニュースポーツ④（インディアカ：得点方法を変える） 6. 体力測定①（形態測定） 7. 体力測定②（体力測定） 8. ニュースポーツ⑤（ペタンク：正規ルール）・（アジャタ：ジュニアA） 9. ニュースポーツ⑥（ペタンク：コート制限）・（アジャタ：ジュニアB） 10. ニュースポーツ⑦（ペタンク：人数制限） ・（アジャタ：一般） 11. ニュースポーツ⑧（創作） 12. ニュースポーツ⑨（創作実技指導：Aグループ、Bグループ） 13. ニュースポーツ⑩（創作実技指導：Cグループ、Dグループ） 14. ニュースポーツ⑪（創作実技指導：Eグループ、Fグループ） 15. 総括及びフィードバック（全講義の振り返り）				
成績評価方法	項目	□課題・小テスト %	□レポート %	■定期試験 70%	■その他 30%
	内容	なし	なし	ニュースポーツを創作し、指導する。	準備体操・主運動、備品準備・後片付け等
教科書	著者	タイトル		出版社	発行年
	特になし	特になし		特になし	特になし
参考文献	特になし	特になし		特になし	特になし
履修要件等	運動制限、運動を禁止されている学生は、事前に学務係に連絡しておくこと。				
研究室	3 号館 2 階 第 26 研究室		オフィスアワー	毎週水曜日 16：20～17：30	

		授業形態	実技	開講年次	1 年次
授業科目名	スポーツ実技 B		担当教員	中村 俊介	
基本項目	専 攻	科 目 区 分		単 位 数	
	理学療法学	健康体育系		選択必修	1 単位
	作業療法学				
	言語聴覚学				
授業内容の要約	道具やルールを少し変えるだけで、誰もが楽しめるようになることを体験し、スポーツの喜びや面白さの要点を理解する。ニュースポーツなどの実践を通じ、心身の変化や技能の向上を体験し、自分に適した活動を見つけ、生涯スポーツに向けて主体的に健康と体力を維持増進する能力を養う。				
学修・教育目標 及び到達目標	1. 身体運動やスポーツの実践を通して、心身の変化や技能の向上を体験する 2. 生涯スポーツにおける自らの役割を認識する 3. 集団行動における自らの特性を知る				
授業の進め方 学修上の助言	実技形式にて、様々な種目を体験する。履修学生が極端に少ない・多い場合は、実施種目を若干変更する。運動の出来る服装、運動靴で参加すること。				
授業時間外に必要な学修	事前にニュースポーツのルールを調べてから参加する。			必要な時間	30 分以上
授業計画	1. ニュースポーツ①（アルティメット：様々な投げ方を習得する） 2. ニュースポーツ②（アルティメット：遠距離を正確に投げられるようになる） 3. ニュースポーツ③（アルティメット：試合での動き方を習得する） 4. ニュースポーツ④（アルティメット：得点方法を変える） 5. 実技試験① 6. ニュースポーツ⑤（シャッフルボード：正規ルール） ・（チャレンジ・ザ・スティック） 7. ニュースポーツ⑥（シャッフルボード：得点方法を変える） ・（チャレンジ・ザ・スティック） 8. ニュースポーツ⑦（シャッフルボード：得点方法を変える） ・（チャレンジ・ザ・スティック） 9. 実技試験② 10. ニュースポーツ⑧（ユニホック：ボール回しができるようになる） 11. ニュースポーツ⑨（ユニホック：シュートができるようになる） 12. ニュースポーツ⑩（ユニホック：試合での動き方を習得する） 13. ニュースポーツ⑪（ユニホック：得点方法を変える） 14. 実技試験③ 15. 総括及びフィードバック（全講義の振り返り）				
成績評価方法	項目	□課題・小テスト %	□レポート %	■定期試験 70%	■その他 30%
	内容			各種目における技能修得状況の実技試験	準備体操・主運動、備品準備・後片付け等
教科書	著者	タイトル		出版社	発行年
	特になし	特になし		特になし	特になし
参考文献	特になし	特になし		特になし	特になし
履修要件等	運動制限、運動を禁止されている学生は、事前に学務係に連絡しておくこと。				
研究室	3 号館 2 階 第 26 研究室		オフィスアワー	毎週水曜日 16：20～17：30	

		授業形態	演習	開講年次	1 年次
授業科目名	レクリエーション		担当教員	中村 俊介	
基本項目	専 攻	科 目 区 分		単 位 数	
	理学療法学	健康体育系		選択必修	2 単位
	作業療法学				
	言語聴覚学				
履修期間	前期 (30h)				
授業内容の要約	レクリエーションの企画立案・指導を通して、対象者の理解、アクティビティの選択、プログラムの進め方、効果判定、安全への配慮などについて学習する。また、他者の運営するプログラムを客観的に評価する経験を通して、プログラム運営において留意しなければならない視点を理解する。				
学修・教育目標 及び到達目標	1.レクリエーションの企画立案、プログラム運営ができるようになる 2.目的に対する方法の在り方を理解する 3.他者にとって分かりやすい説明ができるようになる				
授業の進め方 学修上の助言	授業の中で参加者、指導者、評価者としての役割りを担う。 実技形式にて、様々な種目を体験する。履修学生が極端に少ない・多い場合は、実施種目を若干変更する。筆記用具・バインダーを持参、運動の出来る服装、運動靴で参加すること。				
授業時間外に必要な学修	教科書の予習			必要な時間	30 分以上
授業計画	1. オリエンテーション、出会い系レクリエーション① 2. 出会い系レクリエーション② 3. スポーツ系レクリエーション 4. 企画準備知的レクリエーション 5. 企画案作成 1 6. レクリエーション指導①（指導：Aグループ、評価：Bグループ） 7. レクリエーション指導②（指導：Bグループ、評価：Cグループ） 8. レクリエーション指導③（指導：Cグループ、評価：Dグループ） 9. レクリエーション指導④（指導：Dグループ、評価：Aグループ） 10. 企画案作成 2 11. レクリエーション指導⑤（指導：Aグループ、評価：Bグループ） 12. レクリエーション指導⑥（指導：Bグループ、評価：Cグループ） 13. レクリエーション指導⑦（指導：Cグループ、評価：Dグループ） 14. レクリエーション指導⑧（指導：Dグループ、評価：Aグループ） 15. 総括及びフィードバック（定期試験の解答・解説）				
成績評価方法	項目	■課題・小テスト 50%	□レポート %	■定期試験 40%	■その他 10%
	内 容	レクリエーションの指導 レクリエーションの評価		筆記試験	授業態度
教科書	著者	タイトル		出版社	発行年
	中村春基	「レクリエーション 改定第2版」 社会参加を促す治療的レクリエーション		三輪書店	2004
参考文献	特になし	特になし		特になし	特になし
履修要件等	運動制限、運動を禁止されている学生は、事前に学務係に連絡しておくこと。				
研究室	3 号館 2 階 第 26 研究室		オフィスアワー	毎週水曜日 16：20～17：30	

		授業形態	演習	開講年次	1 年次
授業科目名	基礎ゼミ		担当教員	各担当教員	
基本項目	専 攻	科 目 区 分		単 位 数	
	理学療法学	教養ゼミ		必 修	2 単位
	作業療法学				
	言語聴覚学				
履修期間	前期（30h）				
授業内容の要約	「分類し、系統立てる力」を身につけるため、関連施設見学を軸としたアクティブ・ラーニングを実践する。				
学修・教育目標 及び到達目標	1. 関連施設見学を通して、メモ作成、レポート作成の仕方を身につける 2. 「事実の記述」と「考察」と「感想」の書き分けができるようになる 3. 対話をとおして、学びを深めることが出来る				
授業の進め方 学修上の助言	少人数形式で、担当教員の指導のもと、授業を進める。 受け身にならず、積極的に発言すること。				
授業時間外に必要な学修	他の授業でレポートを課された際にも、「事実の記述」「考察」「感想」を意識する			必要な時間	60 分以上
授業計画	1. ダンドリ手帳説明、関連施設見学の概略説明、ゼミでの顔合わせ（全体で実施） 2. レポート課題の説明【手引き】、メモ→レポート練習①、見学の身だしなみについて(全体で実施) 3. メモ→レポート練習②（全体で実施） 4. 施設の事前情報収集【パンフ、CALL 室、Wi-Fi】、当日の動きの再確認【手引き】 5. 関連施設見学(1) 6. 関連施設見学(1)のまとめ 7. 関連施設見学(2) 8. 関連施設見学(2)のまとめ 9. 関連施設見学(3) 10. 関連施設見学(3)のまとめ 11. 関連施設見学(1)～(3)のまとめ 12. 各ゼミ担当者によるプログラム① 13. 各ゼミ担当者によるプログラム② 14. 各ゼミ担当者によるプログラム③ 15. 各ゼミ担当者によるプログラム④				
成績評価方法	項目	□課題・小テスト %	■レポート 60%	□定期試験 %	■その他 40%
	内 容		関連施設見学のレポートを「事実の記述」と「考察」と「感想」の書き分けができているかを評価する。		各演習の達成度を評価する。 尚、最終成績は、各評価と成長度合をもとに決定する。
教科書	著者	タイトル		出版社	発行年
参考文献		関連施設見学の手引き		大阪河崎リハビリテーション大学	2018
履修要件等					
研究室	各担当教員 研究室		オフィスアワー	各担当教員 オフィスアワー	

		授業形態	講義	開講年次	1 年次
授業科目名	形態・機能学解剖領域Ⅰ		担当教員	小西 正良 ・ 伊藤 隆雄	
基本項目	専 攻	科 目 区 分		単 位 数	
	理学療法学	基礎医学、人体の構造と機能及び身体の発達		必 修	1 単位
	作業療法学				
	言語聴覚学	基礎医学			
授業内容の要約	ヒトのからだを植物性機能と動物性機能に分けて、前期の本科目では、植物性機能を有する各器官がどのような形態・構造であり、身体のどこに配置されているのかを系統的に学ぶ。組織・細胞学、発生学、人類学的な多様な知見に立って学ぶ。また、機能学的な関連の側面からも考察を進め「人体」を総合的に理解してゆく。				
学修・教育目標 及び到達目標	1. 体腔という概念を理解し、そこに収まる器官の配置と関連性を理解することができる 2. 消化・吸収機能を持つ器官の形態と構造について、正確に理解することができる 3. 呼吸と発声メカニズムについての器官の形態と構造について、正確に理解することができる 4. 心臓を中心とした血液循環系およびリンパ系について、正確に理解することができる 5. 泌尿器系での尿生成器官、生殖器系での生殖細胞発生について、正確に理解することができる				
授業の進め方 学修上の助言	講義。本科目では、講義開始時 10 分間での小テスト実施、終了前 5 分間のアセスメントの記述にあてて。本講義では、アクティブラーニング手法を取り入れ、より主体的に学ぶ。 多色の図版を黒板に板書するので、色鉛筆を用意すること。				
授業時間外に必要な学修	指定された範囲の教科書や資料を予め読んでおくこと			必要な時間	60 分以上
授業計画	1. 解剖学総論－解剖学とは（形態と機能）－解剖学の考え方、生物学における解剖学の位置、解剖学の種類、解剖学的正位、解剖学用語と方向用語、ラテン語の導入 pp.5－7 2. 細胞、器官、系統、細胞内小器官とその機能、遺伝子と DNA、遺伝情報の仕組み pp.8－18 3. 消化器系Ⅰ－口腔、歯、舌、唾液腺とその分泌 pp.369－374 4. 消化器系Ⅱ－咽頭、食道・胃・十二指腸の構造、消化管と腹膜 pp.374－379 5. 消化器系Ⅲ－実質器官である肝臓、脾臓、胆嚢と胆汁分泌、血糖値の調節 pp.379－383 6. 呼吸器系Ⅰ－鼻腔、咽頭・喉頭、気管・気管支、呼吸のメカニズム p.384－388 7. 呼吸器系Ⅱ－肺区域、縦隔、副鼻腔、発声のメカニズム pp.389－391 8. 循環器系Ⅰ－体循環と肺循環、心臓の構造と特殊伝導系 pp.339－345 9. 循環器系Ⅱ－主な動脈とリンパ管、胎児循環 pp.346－359 10. 循環器系Ⅲ－門脈と側副循環路、硬膜静脈洞、奇静脈 pp.359－368 11. 泌尿器系－腎臓の構造、尿の生成と血圧調整、膀胱、尿路 pp.392－398 12. 内分泌系－内分泌線と外分泌線、膜タンパクと液性調節 pp.406－410 13. 自律神経系－交感神経と副交感神経 pp.317－322 14. 生殖器系Ⅰ－男性生殖器 pp.399－401、生殖器系Ⅱ－女性生殖器、発生学 pp.401－402 定期試験（定期試験期間における筆記試験で、資料は持ち込み不可） 15. 総括及びフィードバック（定期試験の解答・解説）				
成績評価方法	項目	■課題・小テスト 10%	□レポート %	■定期試験 80%	■その他 10%
	内容	毎回の授業中に実施する小テスト（記述式）を 10%加算する。	特段のレポート課題はしない	国試形式の多肢選択や穴埋め、論述などで出題し、その成績を 80%換算する。	授業中における発言・質疑応答への参加度 10%加算する。
教科書	著者	タイトル		出版社	発行年
	野村 巖	「標準理学・作業療法学 解剖学第 4 版」		医学書院	2015
参考文献	横山千代訳	「解剖学カラーアトラス 第 8 版」		医学書院	2016
	相磯貞和訳	「ネッター解剖学 カラーリングテキスト」原書第 5 版		南江堂	2011
履修要件等					
研究室	1 号館 5 階 第 12 研究室		オフィスアワー	毎週木曜日 12：00～13：00	

		授業形態	講義	開講年次	1 年次	
授業科目名	形態・機能学解剖領域Ⅱ (PT・OT)		担当教員	小西 正良		
基本項目	専 攻	科 目 区 分		単 位 数		履修期間
	理学療法学	基礎医学、人体の構造と機能及び身体の発達		必 修	1 単位	後期 (30h)
	作業療法学					
授業内容の要約	ヒトのからだを植物性機能と動物性機能に分けて、後期の本科目では、動物性機能を有する各器官がどのような形態・構造であり、身体はどこに配置されているのかを系統的に学ぶ。組織・細胞学、発生学、人類学的な多様な知見に立って学ぶ。また、機能学的な関連の側面からも考察を進め「人体」を総合的に理解してゆく。					
学修・教育目標 及び到達目標	1. 骨、筋、関節など運動器系の形態と構造について、正確に理解することができる 2. 神経系の構造を中枢神経と末梢神経に分けて、正確に理解することができる 3. 上・下行性伝導路について、その経路と機能を正確に理解することができる 4. 特殊感覚器の構造とその情報伝導路について正確に理解することができる 5. 一般感覚および深部知覚器の構造とその伝導路について正確に理解することができる					
授業の進め方 学修上の助言	講義。本科目では、講義開始時 10 分間での小テスト実施、終了前 5 分間のアセスメントの記述にあてて。本講義では、アクティブラーニング手法を取り入れ、より主体的に学ぶ。 多色の図版を黒板に板書するので、色鉛筆を用意すること。					
授業時間外に必要な学修	指定された範囲の教科書や資料を予め読んでおくこと			必要な時間	60 分以上	
授業計画	1. 骨学総論－椎骨の形態を中心とした骨の構造、骨の代謝と微細構造、成長と老化、破骨細胞、骨芽細胞 pp.27－36 2. 関節・靱帯学－滑膜性連結を中心とした関節の種類と構造、運動の種類 pp.87－103 3. 筋学総論－筋の種類と収縮メカニズム、ミクロ構造 pp.163－177 4. 神経総論－神経の区分、ニューロンの種類と刺激伝導のメカニズム pp.239－250 5. 脳神経Ⅰ－第 1～第 6 脳神経の線維構成 pp.305－310 6. 脳神経Ⅱ－第 7～第 12 脳神経の線維構成 pp.311－320 7. 中枢神経Ⅰ－脳の構造、髄膜、脳室と脳脊髄液、大脳の機能局在と脳地図、優位性 pp.251－260 8. 中枢神経Ⅱ－脳幹の断面と小脳、脊髄の構造 pp.255－260 9. 自律神経系 pp.316－319 10. 視覚器とその付属器－眼球の構造、外眼筋とその運動 pp.330－335 11. 聴・平衡感覚器－耳、膜迷路と骨迷路、聴覚伝導路、平衡感覚路 pp.335－338 12. 伝導路総論－神経の伝達経路と神経伝達物質、上行性・下行性伝導路の特徴 pp.345－351 13. 伝導路Ⅰ－錐体路 p.281－283、伝導路Ⅱ－錐体外路 pp.275－280 14. 伝導路Ⅲ－上行性伝導路、小脳と固有感覚路 pp.283－284 定 期 試 験 (定期試験期間における筆記試験で、資料は持ち込み不可) 15. 総括及びフィードバック (定期試験の解答・解説)					
成績評価方法	項目	■課題・小テスト 10%	□レポート %	■定期試験 80%	■その他 10%	
	内 容	毎回の授業中に実施する小テスト (記述式) を 10%加算する。	特段のレポート課題はしない	国試形式の多肢選択や穴埋め、論述などで出題し、その成績を 80%換算する。	授業中における発言・質疑応答への参加度 10%加算する。	
教科書	著者	タイトル		出版社	発行年	
	野村 巖	「標準理学・作業療法学 解剖学第 4 版」		医学書院	2015	
参考文献	横山千仞訳	「解剖学カラーアトラス 第 6 版」		医学書院	2002	
	相磯貞和訳	「ネッター解剖学 カラーリングテキスト」		南江堂	2011	
履修要件等	特段なし					
研究室	1 号館 5 階 第 12 研究室		オフィスアワー	毎週木曜日 12 : 00～13 : 00		

		授業形態	講義	開講年次	1 年次
授業科目名	形態・機能学解剖領域Ⅱ（ST）		担当教員	伊藤 隆雄	
基本項目	専 攻	科 目 区 分		単 位 数	
	言語聴覚学	基礎医学		必 修	1 単位
履修期間	後期（30h）				
授業内容の要約	前期における本科目の内容を基礎として、後期では言語聴覚学で必要となる発生学および神経系を中心としての形態と構造を理解する。また、機能学的な側面からも考察して「人体」を総合的に理解してゆく。				
学修・教育目標 及び到達目標	1. 受精から出生までの器官形成について、正確に理解することができる。 2. 神経系の構造を中枢神経と末梢神経に分けて、正確に理解することができる。 3. 上・下行性伝導路について、その経路と機能を正確に理解することができる。 4. 神経系を栄養する脳血管系について、正確に理解することができる。				
授業の進め方 学修上の助言	講義。本科目では、講義開始時 10 分間での小テスト実施、70 分間の本講義、5 分間のアセスメントの記述にあてる。70 分間の本講義では、アクティブラーニング手法を取り入れ、より主体的に学ぶように工夫する。スライド提示、ハンドアウトへの書き込みをするので、色鉛筆を用意すること。				
授業時間外に必要な学修	指定された範囲の教科書や資料を予め読んでおくこと			必要な時間	60 分以上
授業計画	1. 筋学——咽頭と喉頭の構造、発声にかかわる筋 2. 咀嚼運動とその筋および神経、嚥下反射とそれにかかわる筋および神経 3. 受精、着床、卵割、胚盤胞の形成、二胚葉形成 more 15～51 ページ 4. 神経管、体節発生、鰓弓 more 53～68 ページ 5. 器官発生 1 咽頭器官、舌、顔面 more 155～202 ページ 6. 器官発生 2 呼吸器、耳の発生 more 191～202、398～414 ページ 7. 特殊循環—胎児循環、脳底動脈系、硬膜静脈洞 8. 脳神経 1 第 1～6 脳神経と視覚器 PP.305～310 9. 脳神経 2 第 7～12 脳神経と味覚、聴覚・平衡器 PP.311～320 10. 中枢神経 1 神経系の発生復習、中枢神経の区分とその機能、間脳、中脳、橋、延髄の形態 11. 中枢神経 2 大脳の区分と脳地図、機能局在、優位脳 PP.251～260 12. 中枢神経 3 下行性伝導路 PP.275～283 13. 中枢神経 4 上行性伝導路、特殊感覚路 PP.283～284 14. 中枢神経 5 大脳辺縁系、papetz 回路 PP.268～267 定 期 試 験（定期試験期間における筆記試験で、資料は持ち込み不可） 15. 総括及びフィードバック（定期試験の解答・解説）				
成績評価方法	項目	■課題・小テスト 10%	□レポート %	■定期試験 80%	■その他 10%
	内容	毎回の授業中に実施する小テスト（記述式）を 10%加算する。	特段のレポート課題はしない	国試形式の多肢選択や穴埋め、論述などで出題し、その成績を 80%換算する。	授業中における発言・質疑応答への参加度 10%加算する。
教科書	著者	タイトル		出版社	発行年
	野村 巖	「標準理学・作業療法学 解剖学第 4 版」		医学書院	2015
参考文献	横山千仞訳	「解剖学カラーアトラス 第 6 版」		医学書院	2002
	相磯貞和訳	「ネッター解剖学 カラーリングテキスト」		南江堂	2011
履修要件等	特段なし				
研究室	1 号館 5 階 第 12 研究室		オフィスアワー	毎週木曜日 12：00～13：00	

		授業形態	講義	開講年次	1 年次
授業科目名	形態・機能学生理領域Ⅰ		担当教員	坪田 裕司	
基本項目	専 攻	科 目 区 分		単 位 数	
	理学療法学	基礎医学、人体の構造と機能及び身体 の発達		必 修	1 単位
	作業療法学				
	言語聴覚学	基礎医学	前期（30h）		
授業内容の要約	身体の異常を把握・理解する為には、正常な姿を理解しておく必要があることはいうまでもない。生理学では、人体の細かな機能と、それらを統合する生体機能の自己調節、恒常性の維持機構、適応について学習し、生きている仕組みを総合的に理解できるように学ぶ。				
学修・教育目標 及び到達目標	1. 人体の基本的生理機能を理解できる。 2. 細胞から臓器、個体レベルまで機能している生理的システムをイメージできる。 3. 生命現象における基本的な知識を学習して、今生きている、命を支えている体の仕組みを説明出来る。				
授業の進め方 学修上の助言	講義ポイントのまとめ資料をあらかじめ配布する。国試はもちろん専門科目の基礎として重要な内容ばかりであるから、授業で触れられなかった部分も含め充分な予習復習が重要である。				
授業時間外に必要な学修	まとめ資料を読んでおよその講義内容を把握しておくこと			必要な時間	30 分以上
授業計画	1. 細胞生物学、生命の単位、（細胞の構造、細胞膜、遺伝と進化、ATP） 2. 消化と吸収（三大栄養素、消化管、消化酵素、蛋白質、糖質、脂質） 3. 代謝と栄養（蛋白質代謝、糖質代謝、脂質代謝、エネルギー代謝） 4. 血液（赤血球、白血球、血小板、血色素とその代謝、酸素と二酸化炭素） 5. 呼吸（呼吸器、呼吸運動、ガス交換） 6. 循環：心臓と心電図（心臓の構造と機能、血管系、刺激伝導系、心電図の基礎） 7. 微小循環、脳循環とリンパ循環（間質液、脳脊髄液、脳血液関門、リンパ管） 8. 尿生成と排泄（腎臓の構造と機能、利尿） 9. 細胞膜と物質の出入り（受容体、興奮性細胞、神経細胞、静止膜電位） 10. 神経線維、興奮の伝導（インパルス、シナプス伝達、跳躍伝導、神経伝達物質） 11. 神経の情報伝達（興奮性と抑制性接続、神経系、中枢神経、末梢神経） 12. 感覚（感覚と知覚、体性感覚、内臓感覚） 13. 感覚（深部感覚、視覚） 14. 感覚（視覚続き、聴覚、味覚、嗅覚、平衡感覚） 定 期 試 験 15. 総括及びフィードバック				
成績評価方法	項 目	■課題・小テスト 55%	■レポート 3%	■定期試験 40%	■その他 2%
	内 容	全体1/3ほどで中間テストを2回行なう	提出物で評価する	中間テストと合わせて評価する	講義への参加度合いで評価する
教科書	著者	タイトル		出版社	発行年
	KimE. Barerett, 他著 岡田泰伸 他訳	「ギャノン生理学 原書 25 版」		丸善	2017
参考文献	桑名俊一他編 著	生理学		理工図書	2016
履修要件等	高校生物学履習済みもしくは生物学履習中であること。				
研究室	1 号館 5 階 第 11 研究室		オフィスアワー	毎週水曜日 16：20～17：50 ※以外メールで調整	

		授業形態	講義	開講年次	1 年次
授業科目名	形態・機能学生理領域Ⅱ		担当教員	坪田 裕司	
基本項目	専攻	科目区分		単位数	履修期間
	理学療法学	基礎医学、人体の構造と機能及び 身体の発達		必修	1 単位
	作業療法学				
	言語聴覚学	基礎医学			
授業内容の要約	身体の異常を把握・理解する為には、正常な姿を理解しておく必要があることはいうまでもない。生理学では、人体の細かな機能と、それらを統合する生体機能の自己調節、恒常性の維持機構、適応について学習し、生きている仕組みを総合的に理解できるように学ぶ。				
学修・教育目標 及び到達目標	1. 人体の基本的生理機能を理解できる。 2. 細胞から臓器、個体レベルまで機能している生理的システムをイメージできる。 3. 生命現象における基本的な知識を学習して、今生きている、命を支えている体の仕組みを説明出来る。				
授業の進め方 学修上の助言	講義ポイントのまとめ資料をあらかじめ配布する。国試はもちろん専門科目の基礎として重要な内容ばかりであるから、授業で触れられなかった部分も含め充分な予習復習が重要である。				
授業時間外に必要な学修	まとめ資料を読んでおおよその講義内容を把握しておくこと			必要な時間	30 分以上
授業計画	1. 筋（筋細胞、筋収縮、筋繊維の構造、興奮収縮連関） 2. 筋（筋細胞、筋収縮のエネルギー、疲労、筋の種類） 3. 筋感覚（筋紡錘、筋反射、大脳基底核、小脳、運動調節、運動障害） 4. 運動生理（運動負荷と心拍数、基礎代謝、RMR、METs、エクササイズ） 5. 自律神経系（交感神経系、副交感神経系、自律神経の中樞、視床下部） 6. 体温調節（体温調節中枢、自律神経、発汗） 7. 高次脳神経（本能、記憶と学習、統合機能、睡眠、脳波） 8. 循環（循環調節、血圧、異常心電図） 9. 呼吸（神経性調節、反射、呼吸量、酸素負債） 10. 内分泌（ホルモン、フィードバック、恒常性）【中村美砂】 11. 内分泌（続き）【中村美砂】 12. 内分泌と神経性調節、生体システムと恒常性（恒常性維持、ストレス） 生体防御と免疫（自然免疫、獲得免疫、リンパ球） 13. 体液の平衡（体液量、電解質、アシドーシスとアルカローシス、恒常性） 14. 成長と老化（加齢変化、廃用症候群、認知症の予防） 定期試験 15. 総括及びフィードバック（定期試験の解答・解説）				
成績評価方法	項目	■課題・小テスト 45%	■レポート 3 %	■定期試験 50 %	■その他 2 %
	内容	全体1/2ほどで中間テストを1回行ない45%とする	提出物で評価する	中間テストと合わせて評価する	講義への参加度合いで評価する
教科書	著者	タイトル		出版社	発行年
	KimE. Barerett, 他著 岡田泰伸他訳	「ギャノン生理学 原書 25 版」		丸善	2017
参考文献	桑名俊一他編著	生理学		理工図書	2016
履修要件等	高校生物学履習済みもしくは生物学履習中であること。				
研究室	1 号館 5 階 第 11 研究室		オフィスアワー	毎週火曜日 13：00～14：30 ※（会議のない週） 上記以外はメールで調整	

				授業形態	講義	開講年次	1 年次	
授業科目名		解剖学実習 I			担当教員	小西 正良・伊藤 隆雄・岡 健司		
基本項目		専 攻	科 目 区 分			単 位 数		履修期間
		理学療法学	基礎医学、人体の構造と機能及び身体の発達			必 修	1 単位	前期（30h）
		作業療法学						
授業内容の要約		形態・機能学解剖領域Ⅰいわゆる解剖学座学で学んでいる知識と並行して、特に骨格や筋肉、関節などの運動器の構造・形態を学ぶ。筋や骨格がどのように配されて、どのような仕組みで運動するのかを学ぶ。骨格標本を手に触れ部位の名称を学び、さらに筋肉、血管、神経の走行、それらの立体構造や物理力学的な働き、ベクトルやトルクなどと関連付けながら理解を深める。						
学修・教育目標及び到達目標		1. 上肢骨格の骨名およびその詳細な部位名を正確に言うことができる 2. 筋肉の起始・停止・作用および支配神経を正確に言うことができる 3. 骨格模型を用いて筋肉の起始・停止・作用を毛糸・テープなどで表現することができる 4. 関節の種類と運動を正確に言うことができる。また、自らの身体で表現できる						
授業の進め方 学修上の助言		実習を基本とする。学生を 4 人 1 グループに編成し、各グループに骨格標本模型 1 箱を貸与する。毎回、実習の学習目標を設定して学習の達成を図る。骨名はラテン語や英語の名称で覚えることが望ましい。予め、実習要領を配布するので、それに従って予習すること。						
授業時間外に必要な学修		指定された範囲の教科書や資料を予め読んでおくこと				必要な時間	60 分以上	
授業計画		1. 骨学実習／全身骨格の点検と照合 2. 骨学実習／椎骨の種類と数、脊柱・脊柱彎曲 3. 骨学実習／上肢帯と胸郭の骨（鎖骨、肩甲骨）と肋骨、胸骨 4. 骨学実習／自由上肢の骨（上腕骨、前腕骨、手根骨） 5. 関節学実習／主な関節の構造と運動の種類、腕神経叢のなりたち 6. 中間実習試験／前半の知識の確認として実習試験をおこなう。実施要領は別に示す。 7. 筋学実習／上肢帯の筋（僧帽筋、肩甲挙筋、大・小菱形筋、前鋸筋、大・小胸筋） 8. 筋学実習／上腕の筋（上腕前面の筋、上腕後面の筋） 9. 筋学実習／前腕前面の筋（浅層、手関節屈筋群） 10. 筋学実習／前腕前面の筋（深層、手関節および指関節屈筋群） 11. 筋学実習／前腕後面の筋（手関節および指関節伸筋群） 12. 筋学実習／手の筋Ⅰ母指球筋 13. 筋学実習／手の筋Ⅱ小指球筋と手掌筋 14. 筋学実習／体幹から上腕への筋／頸部前面の筋 定 期 試 験 15. 総括及びフィードバック（定期試験の解答・解説）						
成績評価方法	項目	■課題・小テスト 10%		□レポート %	■定期試験 80 %		■その他 10 %	
	内 容	授業内容を理解したかの確認試験を毎回行う。レベルに達するまで行う。			2 回の実習試験（中間および定期試験）を 80% 換算して判定する。		授業への参加度、積極性、態度	
教科書		著者	タイトル			出版社	発行年	
		野村 巖	「標準理学・作業療法学 解剖学第 4 版」			医学書院	2015	
参考文献		横山千仞訳	「解剖学カラーアトラス 第 8 版」			医学書院	2016	
		寺田 春水	「骨学実習の手引き」第 4 版			南山堂	1992	
履修要件等								
研究室		1 号館 5 階 第 12 研究室			オフィスアワー	毎週木曜日 12：00～13：00		

				授業形態	講義	開講年次	1 年次
授業科目名		解剖学実習Ⅱ		担当教員	小西 正良・伊藤 隆雄・岡 健司		
基本項目	専 攻	科 目 区 分			単 位 数		履修期間
	理学療法学	基礎医学、人体の構造と機能及び身体 の発達			必 修	1 単位	後期（30h）
	作業療法学						
授業内容の要約		形態・機能学解剖領域Ⅱ、いわゆる座学で学んだ知識を基礎として、骨格や筋肉、関節などの運動器の構造・形態を学ぶ。筋や骨格がどのような広がりを示し、どのような仕組みで運動するのかを学ぶ。骨格標本を手にとり部位の名称を学び、さらに筋肉、血管、神経の走行、それらの立体構造や物理力学的な働き、ベクトルやトルクなどと関連付けながら理解を深める。					
学修・教育目標 及び到達目標		1. 下肢骨格の骨名およびその詳細な部位名を正確に言うことができる 2. 筋肉の起始・停止・作用および支配神経を正確に言うことができる 3. 骨格模型を用いて筋肉の起始・停止・作用を毛糸・テープなどで表現することができる 4. 関節の種類と運動を正確に言うことができる。また、自らの身体で表現できる					
授業の進め方 学修上の助言		実習を基本とする。学生を 4 人 1 グループに編成し、各グループに骨格標本模型 1 箱を貸与する。毎回、実習の学習目標を設定して学習の達成を図る。骨名はラテン語や英語の名称で覚えることが望ま					
授業時間外に必要な学修		指定された範囲の教科書や資料を予め読んでおくこと				必要な時間	60 分以上
授業計画		1. 骨学実習／下肢の骨格照合、骨盤を構成する骨と大腿骨 2. 骨学実習／自由下肢の骨一脛骨、腓骨と股関節、膝関節の構造、運動、靱帯 3. 骨学実習／足根骨、中足骨の左右判定、半関節 4. 骨学実習／脳神経と通過する孔 5. 筋学実習／殿部の筋、大腿の筋膜 6. 筋学実習／外旋 6 筋（上下双子筋、梨状筋、内外閉鎖筋、大腿方形筋） 7. 筋学実習／大腿前面の筋（大腿 4 頭筋、縫工筋など） 8. 中間実習試験／前半の知識の確認として実習試験をおこなう。実施要領は別に示す。 9. 筋学実習／大腿後面の筋（ハムストリングの筋） 10. 筋学実習／大腿内転の筋 11. 筋学実習／下腿前面の筋と側面の筋 12. 筋学実習／下腿後面の筋 13. 筋学実習／足部の筋 14. 筋学実習／固有背筋 定 期 試 験 15. 総括及びフィードバック（定期試験の解答・解説）					
成績評価方法	項目	■課題・小テスト 10%		□レポート %	■定期試験 80 %		■その他 10 %
	内容	授業内容を理解したかの確認試験を毎回行う。レベルに達するまで行う。			2 回の実習試験（中間および定期試験）を 80% 換算して判定する。		授業への参加度、積極性、態度
教科書		著者	タイトル			出版社	発行年
		野村 巖	「標準理学・作業療法学 解剖学第4版」			医学書院	2015
参考文献		横山千仞訳	「解剖学カラーアトラス 第 6 版」			医学書院	2002
		寺田 春水	「骨学実習の手引き」			南山堂	1992
履修要件等							
研究室		1 号館 5 階 第 12 研究室		オフィスアワー	毎週木曜日 12：00～13：00		

				授業形態		実習	開講年次	1 年次	
授業科目名		生理学実習			担当教員		坪田 裕司		
基本項目		専 攻	科 目 区 分			単 位 数		履修期間	
		理学療法学	基礎医学、人体の構造と機能及び 身体の発達			必修	1 単位	後期（45h）	
		作業療法学							
授業内容の要約		身体の異常を把握・理解する為には、正常な姿を理解しておく必要があることはいうまでもない。生理学実習では、座学の生理学で学習した内容を、実験実習を通して経験し具体性のあるイメージとして理解する。論文形式でレポートを作成し、データのまとめ方とその評価についても学習する。							
学修・教育目標 及び到達目標		1. 人体の基本的生理機能を理解し、実習に関連する生理学的背景情報を理解できる 2. 得られた結果を自分の言葉で説明できる 3. 実習結果について他の人と論理的に討論出来る 4. 実習内容を簡潔に論文形式でまとめ、論理的な言葉と文章で考察出来る 5. 誰とでもコミュニケーションを取り課題をこなせる							
授業の進め方 学修上の助言		5～7 名単位で班を作り、各自が自主性を持って実験に当たる。被験者等の役目が偏らないように全員で実習すること。結果として得られたデータについては共有して、各班で討論して考察を深めるが、実習レポートは個人で作成し、自分の文章でまとめること。実験器具の準備や後片づけも積極的に責任持って行う。運動系の人体生理実習では短パン等の軽装運動着、それ以外では白衣を着用する等、実習しやすい服装で出席すること。							
授業時間外に必要な学修		生理学の復習				必要な時間		30 分以上	
授業計画		1. オリエンテーション 2. 表皮感覚（圧点痛点の分布） 3. データのまとめ方と報告書レポートの書き方、動物実験倫理講習 4. カエル骨格筋の収縮と疲労 5. カエル骨格筋の収縮と疲労 6. カエル骨格筋の収縮と疲労 7. 腱反射 8. 骨格筋の収縮、拮抗筋の随意運動と筋電図 9. 筋疲労、腱反射時の筋電図 10. 運動負荷と呼吸調節、酸素負債 11. 運動負荷と呼吸調節、酸素負債				12. 運動負荷と呼吸調節、酸素負債 13. 血圧測定 14. 心電図と電気軸・循環調節と運動負荷 15. 心電図と電気軸・循環調節と運動負荷 16. 腎機能、水負荷試験と排尿量の調節 17. 腎機能、水負荷試験と排尿量の調節 18. 腎機能、水負荷試験と排尿量の調節 19. 神経伝導速度 20. 神経伝導速度 21. 神経伝導速度 22. 総括 23. 総括 24. 総括			
成績評価方法	項目	■課題・小テスト 5%		■レポート 40 %		■その他 55 %		□備考	
	内容	項目により課題を出す		実習レポート（2 回の提出を義務とする）を加味して評価する		実習態度、実習への参加度を重視する		1 回欠席者は評価 C 以上あるいは D が 2 回のレポートがないと単位が認定されない	
教科書		著者		タイトル		出版社		発行年	
		KimE. Barerett, 他著 岡田泰伸他訳		「ギャノン生理学 原書 25 版」		丸善		2017	
参考文献		桑名俊一他編著		生理学		理工図書		2016	
履修要件等		高校生物学履習済みもしくは生物学履習中であること。							
研究室		1 号館 5 階 第 11 研究室			オフィスアワー		毎週火曜日 13：00～14：30 ※（会議のない週） 上記以外はメールで調整		

				授業形態	講義	開講年次	1 年次		
授業科目名		発育発達学(含運動発達学)		担当教員	武富 浩也				
基本項目	専 攻	科 目 区 分			単 位 数		履修期間		
	理学療法学	基礎医学、人体の構造と機能及び身体 の発達			必 修	1 単位	後期 (30h)		
	作業療法学								
	言語聴覚学	基礎医学		選択必修					
授業内容の要約		発育発達学は受精卵から始まり人の死までを論じる学問である。身体のみならず認知面も含んでおり、生きる意味とか人生における様々な問題まで広く深く考えてもらう機会になればと思います。							
学修・教育目標 及び到達目標		1. 人の発達がいかなるものであるかを理解できる 2. 人は変化し続けるものだということを知ることができる 3. 発育発達学を通して、今までとは違った視点で人生を考えることができる							
授業の進め方 学修上の助言		古典的な講義形式。新聞（一般紙）を読んで、発達と関連する事象に敏感になって考えてもらいたい。これはスマホでもできる。							
授業時間外に必要な学修		教科書は指定されている。復習をしてもらいたい。				必要な時間	30 分以上		
授業計画		1. オリエンテーション 2. 人間発達の概念 3. 胎児・新生児期 4. 幼児期 5. 学童期 6. 青年期 7. 成人期 8. 高齢期 9. 原子反射、姿勢反射 10. 視覚の発達 11. ハンドスキル 12. 聴覚・言語の機能と発達 13. 心理・社会的機能 14. まとめ 定 期 試 験 15. 総括及びフィードバック（定期試験の解答・解説）							
成績評価方法	項目	□課題・小テスト %		□レポート %		■定期試験 90 %		■その他 10 %	
	内 容					ペーパーテスト		授業への参加度も加味。	
教科書		著者		タイトル		出版社		発行年	
		福田 恵美子		人間発達学		中外医学社		2017 年	
参考文献									
履修要件等									
研究室		1 号館 1 階 非常勤講師控室			オフィスアワー	授業終了後、質問を受け付ける			

				授業形態	講義	開講年次	1 年次		
授業科目名		医学概論		担当教員	岡田 守弘				
基本項目	専攻	科目区分			単位数		履修期間		
	理学療法学	基礎医学、人体の構造と機能及び身体 の発達			選択必修	1 単位	後期（30h）		
	作業療法学								
	言語聴覚学	基礎医学	必修						
授業内容の要約		近年療法士はチーム医療の一員としての役割が増大し、他職種との連携がますます重要となっている。このため、専門領域のみならず幅広い医学知識が要求される。本講座では医療人として、チーム医療の一員として必要な医学的知識の習得を目指す。							
学修・教育目標 及び到達目標		1. 医療人として必要な医学的知識を習得する 2. 日本での医療の現状を理解し、療法士としてチーム医療に不可欠な医学的知識を習得する 3. 本講座で学んだ医学的知識を専門科目の学習や臨床現場で応用することができる。							
授業の進め方 学修上の助言		講義形式で行い、間に質疑応答を行う。疾患を理解するうえで、解剖学、生理学の知識が必要である。これらの科目を併行して学習しておくことが望ましい。							
授業時間外に必要な学修		教科書の指定された範囲を予め読んでおくこと				必要な時間	30 分以上		
授業計画		1. 医学の定義とその使命、医学の歴史（岡田） 2. 医学の発展と倫理（岡田） 3. 人体の構造と機能（1）（岡田） 4. 人体の構造と機能（2）（岡田） 5. 臨床医学総論（岡田） 6. 臨床医学各論（1）（岡田） 7. 臨床医学各論（2）（岡田） 8. 臨床医学各論（3）（岡田） 9. 臨床医学各論（4）（岡田） 10. 疫学（人口統計、疾病の変化など）（亀田） 11. 医療関係の職種と現状（亀田） 12. 保健医療対策（亀田） 13. 医師法、薬事法、衛生法規の概要（亀田） 14. まとめ（岡田） 15. 定期試験							
成績評価方法	項目	□課題・小テスト %		□レポート %		■定期試験 80 %		■その他 20 %	
	内容					定期試験にて授業内容全般についての理解度を評価する。		授業中の質疑応答にて理解度を評価する。遅刻、無断退室、講義中の私語・スマートフォンの使用等は減点の対象とする。	
教科書		著者		タイトル			出版社	発行年	
		北村諭		「コメディカルのための専門基礎分野テキスト 医学概論 第6版」			中外医学社	2017	
参考文献									
履修要件等		形態・機能学、一般臨床医学を履修しておくことが望ましい							
研究室		1 号館5 階 第15 研究室			オフィスアワー	毎週月曜日 10：40 ～ 12：10			

		授業形態	講義	開講年次	1 年次
授業科目名	整形外科学Ⅰ		担当教員	亀田 浩司	
基本項目	専 攻	科 目 区 分		単 位 数	
	理学療法学	臨床医学、疾病の原因と治療		必 修	1 単位
	作業療法学				
授業内容の要約	本講義では運動器の働きの中心となる骨、関節、筋、神経の機能や病態との関係について学び、診断や治療へ結びつける。また、関節リウマチと類似疾患、慢性関節疾患、代謝性骨疾患、先天性骨系統疾患、骨・軟部腫瘍など疾患総論についても学修する。				
学修・教育目標 及び到達目標	1. 整形外科的診断法および検査法について理解できる 2. 運動器疾患の病態、症状、治療法が理解できる 3. 整形外科分野における全身性疾患について理解できる				
授業の進め方 学修上の助言	板書で行い、適宜参考資料としてプリントを配布する				
授業時間外に必要な学修	指定された範囲の教科書を予め読んでおくこと			必要な時間	30 分以上
授業計画	1. 整形外科とは 2. 診断総論 1. (問診) 3. 診断総論 2. (視診) 4. 診断総論 3. (検査 1) 5. 診断総論 4. (検査 2) 6. 治療総論 1. (保存療法 1) 7. 治療総論 2. (保存療法 2) 8. 治療総論 3. (手術療法) 9. 関節リウマチと類似疾患 1. 10. 関節リウマチと類似疾患 2. 11. 慢性関節疾患 12. 代謝性骨疾患 13. 先天性骨系統疾患、循環障害と壊死性疾患 14. 骨・軟部腫瘍 定 期 試 験 15. 総括及びフィードバック（定期試験の解答・解説）				
成績評価方法	項目	□課題・小テスト %	□レポート %	■定期試験 70%	■その他 30%
	内 容			授業の内容を全般についての理解度を評価する	授業への参加度、および授業態度を評価
教科書	著者	タイトル		出版社	発行年
	鳥巢岳彦 ほか	「標準整形外科学 第 12 版」		医学書院	2014
参考文献	特になし	特になし		特になし	特になし
履修要件等					
研究室	1 号館 4 階 第 5 研究室		オフィスアワー	毎週金曜日 12:10～13:00	

		授業形態	講義	開講年次	1 年次
授業科目名	一般臨床医学		担当教員	岡田 守弘	
基本項目	専 攻	科 目 区 分		単 位 数	
	理学療法学	臨床医学、疾病の原因と治療		必 修	1 単位
	作業療法学				
	言語聴覚学	臨床医学および歯科学			
授業内容の要約	本学カリキュラムで比較的授業時間の多い内科学、精神医学、整形外科のほかにも、多くの疾患に精通しておくことは医療人にとって必須である。本講座では救急医学、皮膚科学、産婦人科学、泌尿器科学、眼科学、耳鼻咽喉科学、老年医学などについて、医療人として「これだけは知っておいてほしい」疾患を中心に解説する。				
学修・教育目標 及び到達目標	1. PT, OT, ST にとって必要な医学知識を習得できる 2. 学んだ疾患の知識を専門科目の学習に生かすことができる 3. 学んだ疾患の知識を臨床現場で応用することができる				
授業の進め方 学修上の助言	講義形式で行い、間に質疑応答を行う。疾患を理解するうえで、解剖学、生理学の知識が必要である。これらの科目を併行して学習しておくことが望ましい。				
授業時間外に必要な学修		教科書の指定された範囲を予め読んでおくこと		必要な時間	30 分以上
授業計画		1. 概論 2. 救急医療（教科書 pp1～11） 3. 外科総論（教科書 pp13～21） 4. 脳神経外科総論（教科書 pp23～30） 5. 皮膚疾患①（教科書 pp35～55） 6. 皮膚疾患②（教科書 pp35～55） 7. 泌尿器科疾患①（教科書 pp57～73） 8. 泌尿器科疾患②（教科書 pp57～73） 9. 婦人科・産科疾患①（教科書 pp75～92） 10. 婦人科・産科疾患②（教科書 pp75～92） 11. 眼疾患（教科書 pp97～103） 12. 耳鼻咽喉科疾患①（教科書 pp105～116） 13. 耳鼻咽喉科疾患②（教科書 pp105～116） 14. 老年医学（教科書 pp119～12） 定 期 試 験 15. 総括及びフィードバック（定期試験の解答・解説）			
成績評価方法	項目	□課題・小テスト %	□レポート %	■定期試験 80%	■その他 20 %
	内 容			定期試験にて授業内容全般についての理解度を評価する。	授業中の質疑応答にて理解度を評価する。遅刻、無断退室、講義中の私語・スマートフォンの使用等は減点の対象とする。
教科書		著者	タイトル		出版社
		椿原彰夫ら	PT・OT・ST のための一般臨床医学 第3 版		医歯薬出版社
参考文献					
履修要件等		形態・機能学を履修しておくことが望ましい			
研究室	1 号館 5 階 第 15 研究室		オフィスアワー	毎週月曜日 10：40 ～ 12：10	

		授業形態	講義	開講年次	1 年次
授業科目名	リハビリテーション概論 (含地域リハビリテーション)		担当教員	亀田 浩司	
基本項目	専 攻	科 目 区 分		単 位 数	
	理学療法学	社会福祉とリハビリの理念		必 修	1 単位
	作業療法学				
	言語聴覚学				
履修期間			前期 (30h)		
授業内容の要約	リハビリテーションの歴史、理念と社会的使命、地域におけるリハビリテーションの取り組みなど包括的な見地からリハビリテーションの考え方を学ぶ。さらにリハビリテーション領域の専門性と考え方、またチームアプローチの重要性を理解する。				
学修・教育目標 及び到達目標	1. リハビリテーションの理念、役割が理解できる 2. 疾病と障害について評価できる 3. リハビリテーション過程や各専門職が理解できる 4. リハビリテーションに関わる諸問題を知る				
授業の進め方 学修上の助言	板書にて行う。又、適宜参考資料としてプリントを配布する。				
授業時間外に必要な学修	指定された範囲の教科書を予め読んでおくこと			必要な時間	30 分以上
授業計画	1. 医療福祉現場でのリハビリテーションの役割 (亀井) 2. リハビリテーション、IL 運動、ノーマライゼーションの概念 3. 健康と疾病 4. 障害とは (1) 国際障害分類 5. 障害とは (2) 国際生活機能分類 6. 障害の心理と障害受容 7. 防衛機制 8. リハビリテーション過程 9. リハビリテーションの諸段階 10. インフォームドコンセント、医療安全レポートシステム 11. 個人情報保護、EBM 12. チームアプローチとクリニカルパス 13. ADL、QOL の概念 (1) 14. ADL、QOL の概念 (2) 定 期 試 験 15. 総括及びフィードバック (定期試験の解答・解説)				
成績評価方法	項目	□課題・小テスト %	□レポート %	■定期試験 70 %	■その他 30 %
	内容			授業の内容を全般についての理解度を評価する	授業への参加度等を考慮する。
教科書	著者	タイトル		出版社	発行年
	上好昭孝 ほか	「医学生・コメディカルのための手引書 リハビリテーション概論 第3版」		永井書店	2014
参考文献	特になし	特になし		特になし	特になし
履修要件等					
研究室	1 号館 4 階 第 5 研究室		オフィスアワー	毎週金曜日 12:10～13:00	

				授業形態	講義	開講年次	1 年次
授業科目名		社会保障制度		担当教員	野村 和樹		
基本項目	専 攻	科 目 区 分			単 位 数		履修期間
	理学療法学	社会福祉とリハビリの理念			選択必修	1 単位	後期（30h）
	作業療法学						
	言語聴覚学				必 修		
授業内容の要約		今日の社会保障の理念をはじめ、その現状、法体系、社会保障をめぐる情勢などを概観し、社会保険、公的扶助、社会福祉、医療・公衆衛生の制度の概要および基礎的知識を習得する。また、今日問題となっている事例を取り上げ、実際の社会保障の施策を検証する。					
学修・教育目標 及び到達目標		1. 社会保障の理念が理解できる 2. 日本の社会保障制度を大別でき、それぞれの現状が理解できる 3. 社会保障の各種制度についての法規やしくみ、具体的内容、運用等について説明できる					
授業の進め方 学修上の助言		講義形式で授業を進める。教科書は用いずレジュメを配布し授業を進めるので、A4 版のファイルを用意すること。講義内で知識の整理を図るため小テストを実施					
授業時間外に必要な学修		受講後ノートの整理を求める				必要な時間	30 分以上
授業計画		1. 「社会保障」とは 社会保険とは 2. 社会保障制度の歩み 日本における社会保障制度の歴史と特徴 3. 「医療」に関わる保障Ⅰ 医療に関わる保障とは 4. 「医療」に関わる保障Ⅱ 日本の医療保障制度 5. 医療保険制度Ⅰ 医療保険の制度と仕組み 6. 医療保険制度Ⅱ 医療保険の理解 7. 雇用保険，労災保険，年金保険制度 8. 介護保険制度Ⅰ 介護保険制度の制定 9. 介護保険制度Ⅱ 介護保険制度の仕組み 10. 社会福祉 各種手当 11. 公的扶助 生活保護制度Ⅰ 生活保護制度の理解 12. 公的扶助 生活保護制度Ⅱ 生活保護制度の運用 13. 児童の貧困問題Ⅰ 児童の貧困の実情，貧困率 14. 児童の貧困問題Ⅱ 児童の貧困に関わる支援 定 期 試 験 15. 総括及びフィードバック（定期試験の解答・解説）					
成績評価方法	項目	■課題・小テスト 30%		□レポート %	■定期試験 70%		□その他 %
	内 容	単元終了字に講義内小テストを実施（5回程度）			全般に渡る範囲から理解度をはかる。		
教科書		著者	タイトル			出版社	発行年
		各項目に応じてレジュメを配布する					
参考文献		講義内で適宜紹介する					
履修要件等		社会福祉学（前期開講）を受講されていることが望ましい					
研究室		1 号館 4 階第 1 研究室		オフィスアワー	毎週水曜日 12:10～13:00		

		授業形態		講義	開講年次	1 年次
授業科目名	園芸療法		担当教員	田崎 史江		
基本項目	専 攻	科 目 区 分		単 位 数		履修期間
	理学療法学	理学療法治療学		選択必修	2 単位	前期 (30h)
	作業療法学	作業療法治療学		必 修		
	言語聴覚学	社会福祉とリハビリの理念		選択必修		
授業内容の要約	園芸療法の基礎的な知識を学ぶ。園芸療法の対象者となるクライアントのニーズや課題、必要なサポート等をとらえ、園芸療法を通じたアプローチ方法を学ぶ。					
学修・教育目標 及び到達目標	1. 園芸療法の対象者のニーズや課題が理解できる 2. 園芸療法の効果や方法を説明できる 3. 園芸療法を系統立てて考えられる					
授業の進め方 学修上の助言	授業は課題を提示するので、受講者は授業に参加するにあたり、予習・復習をしっかりと行なうこと。病院や施設、地域活動の中で園芸活動がどのように取り入れられているのか関心を持ち、出版物を読んだり、実践現場でのボランティアや見学を行うことを希望する。					
授業時間外に必要な学修	授業課題を提示するので教科書等を調べ、予習してくること				必要な時間	1 時間以上
授業計画	1. オリエンテーション 資格取得についての説明 学生アセスメントシート記入 他 2. 園芸療法とは：園芸療法の「定義」「歴史」「代替療法」 課題① 3. 園芸療法の目的と手技 1：「高齢者」「認知症」高齢者施設での実践紹介 課題② 4. 園芸療法の目的と手技 2：「知的障がい・発達障がい」「特別支援学校」「就労支援」 課題③ 5. 園芸療法の目的と手技 3：「身体障がい」 課題④ 6. 園芸療法の目的と手技 4：「精神障がい」 課題⑤ 7. 園芸療法の目的と手技 5：「子ども」「地域活動」「園芸福祉」 課題⑥ 8. 園芸療法の進め方 1：概要、対象者の評価 課題⑦ 9. 園芸療法の進め方 2：観察・面接（傾聴・情報収集）練習 課題⑧ 10. 園芸療法場面のリスクマネジメント 課題⑨ 11. 園芸療法現場の問題と解決法、園芸療法をはじめるための準備 課題⑩ 12. 園芸療法の場作り：概要・目的・テーマを持たせた植栽、グループ分け 13. 園芸療法の場作り：デザイン・計画図・概算計画 作成 14. 園芸療法の場作り：プレゼンテーション 定 期 試 験 15. 総括及びフィードバック（定期試験の解答・解説）					
成績評価方法	項目	■課題 5%		■レポート 20%		■定期試験 70%
	内 容	授業予習としての課題の実施を評価する。		施設訪問時のレポート、デザイン計画レポートを課す。		定期試験を実施し、授業内容の理解度を評価する。
教科書	著者	タイトル			出版社	発行年
	松尾英輔	「社会園芸学のすすめ」			農文協	2005
参考文献	山根寛 ほか	「園芸リハビリテーション」			医歯薬出版株式会社	2003
	山根寛	「ひとと植物・環境 療法として園芸を使う」			青海社	2009
履修要件等	「園芸論」「ガーデニング」も履修することが望ましい。 園芸療法士の資格認定を受けようとする受講生は、「園芸論」「園芸療法」「ガーデニング」「園芸療法実習Ⅰ」「園芸療法実習Ⅱ」の単位を取得することが必要となる。					
研究室	1 号館 5 階 第 2 共同研究室		オフィスアワー	毎週火曜日 12:00～13:00		

		授業形態	演習	開講年次	1 年次
授業科目名	ガーデニング		担当教員	村井 恵	
基本項目	専 攻	科 目 区 分		単 位 数	
	理学療法学	理学療法治療学		選択必修	2 単位
	作業療法学	作業療法治療学			
	言語聴覚学	社会福祉とリハビリの理念			
授業内容の要約	園芸療法を行うために、植物の栽培・管理などの基礎的園芸作業の理解と技術を習得する。季節に応じた植物の選択と育て方、庭や畑の管理、園芸療法プログラムを体験し学ぶ。				
学修・教育目標 及び到達目標	1. 園芸植物の栽培・管理ができる 2. 植物の利活用方法を提案・指導できる				
授業の進め方 学修上の助言	主に第1・2 イネーブルガーデンにて授業を行う。天候により内容が変更となる場合もある。資料を適宜配布し、講義と実習で進めていく。講座終了時には野菜類を収穫し、試食会を行う。受講者は作業に適した服装（汚れても良い長袖・長ズボン・長靴・軍手・帽子など）で参加すること。				
授業時間外に必要な学修	通常より植物管理・植物利用について関心を持つこと。			必要な時間	30 分以上
授業計画	1. オリエンテーション 持ち物・服装の確認 第1・第2 イネーブルガーデン見学 2. 園芸の技術1：畑作り 土作り・農園芸の道具類紹介 3. 園芸の技術2：野菜苗の定植・播種 灌水について 看板作成 4. 園芸の技術3：花の播種 播種の方法、育苗について 5. 訪問園芸療法について 園芸療法プログラム体験「押し花作り」 6. 園芸の技術4：施肥について（肥料成分の見方と与え方） 除草について 7. a:施設訪問のフィードバック b:畑の管理 8. a:施設訪問のフィードバック b:畑の管理 9. 園芸療法プログラム体験「フラワーアレンジメント」 畑の管理 10. a:施設訪問のフィードバック b:畑の管理 11. 園芸の技術5：植物の殖やし方について（挿し木・株分け 他） ポット上げ 12. a:施設訪問のフィードバック b:畑の管理 13. 収穫祭プランニング 畑の管理 14. 収穫祭 定 期 試 験 15. 総括及びフィードバック（定期試験の解答・解説）				
成績評価方法	項目	□課題・小テスト %	□レポート %	■定期試験 80 %	■その他 20 %
	内 容			定期試験を実施する。授業の内容全般についての理解度を評価する。	授業や畑での作業への取り組みを「その他」で評価する。欠席・遅刻は減点対象とする。
教科書	著者	タイトル		出版社	発行年
	菅野紹雄	「失敗しない野菜栽培」		サカタのタネ	2008
	高木誠	「草花栽培 基礎講座」		サカタのタネ	2006
履修要件等	「園芸療法」「園芸論」も履修することが望ましい。 園芸療法士の資格認定を受けようとする受講生は、「園芸論」「園芸療法」「ガーデニング」「園芸療法実習Ⅰ」「園芸療法実習Ⅱ」の単位を取得することが必要となる。				
研究室	1 号館 1 階 非常勤講師控室		オフィスアワー	授業終了後、質問を受け付ける	

		授業形態	講義	開講年次	1 年次
授業科目名	園芸論		担当教員	村井 恵	
基本項目	専 攻	科 目 区 分		単 位 数	
	理学療法学	理学療法治療学		選択必修	2 単位
	作業療法学	作業療法治療学			
	言語聴覚学	社会福祉とリハビリの理念			
授業内容の要約	園芸療法に用いる植物全般に関する知識の習得を目指す。地域特性をふまえた植物の利活用や植物を活かしたクライアントに合った環境・植栽計画を通じ、植物を理解し、人と植物の関わりを学ぶ。				
学修・教育目標 及び到達目標	1. 園芸植物を理解し、名前を言うことができる 2. 園芸療法の目的に沿った植物を選択できる 3. クライアントに適した植物を選定、利用できる				
授業の進め方 学修上の助言	図や写真などの資料を適宜配布し、講義と実習で進めていく。関連施設を訪問しての園芸活動のレクチャーなど、相手に伝える練習も行う。受講者は日頃より植物に関心を持ち、植物を育てたり、植物の利活用の面白さを体験すること。				
授業時間外に必要な学修	授業で学んだことを復習すること			必要な時間	30 分以上
授業計画	1. オリエンテーション 植物の基礎知識 1：暮らしの中の園芸植物について 2. 植物の基礎知識 2：花について（春まき一年草・秋まき一年草・宿根草・球根類） 3. 植物の基礎知識 3：野菜について（夏野菜・冬野菜の分類、伝統野菜） 4. 植物の基礎知識 4：果樹・樹木について（落葉樹と広葉樹、特徴と分類） 5. 植物の基礎知識 5：観葉植物について、緑の効用と利用 6. 植物の基礎知識 6：ハーブについて（効能・利用法） 7. a:施設訪問 1：園芸療法実践「押し花作り」b:園芸療法プログラム体験「梅ジュース作り」 8. a:施設訪問 2 園芸療法実践「梅ジュース作り」b:園芸療法プログラム体験「ハーブサシェ」 9. 植物の基礎知識 7：危険な植物、主な病害虫、危険な昆虫類、防虫対策と応急処置 他 10. a:施設訪問 3 園芸療法実践「フラワーアレンジメント」 b:園芸療法プログラム体験「押し花クラフト」 11. 植物名テスト（花・野菜・果樹・樹木・観葉植物・ハーブ・危険な植物） 12. a:施設訪問 4 園芸療法実践「押し花クラフト」b:園芸療法プログラム体験「ハーブ石けん」 13. 園芸療法の場作り：植栽計画図作成 14. 園芸療法の場作り：プレゼンテーション 定期試験 15. 総括及びフィードバック（定期試験の解答・解説）				
成績評価方法	項目	■課題・小テスト 10 %	■レポート 15 %	■定期試験 70 %	■その他 5 %
	内 容	授業内で小テストを実施する。(1回)	授業内で園芸療法プログラムを体験後、課題を提示する。(5回)	定期試験を実施する。授業の内容全般についての理解度を評価する。	授業への取り組みを「その他」で評価する。欠席・遅刻は減点対象とする。
教科書	著者	タイトル		出版社	発行年
	松尾英輔	「社会園芸学のすすめ」		農文協	2005
	菅野紹雄	「失敗しない野菜栽培」		サカタのタネ	2008
	高木誠	「草花栽培 基礎講座」		サカタのタネ	2006
参考文献	土橋豊	「ビジュアル園芸・植物用語辞典」		家の光協会	2011
履修要件等	「園芸療法」「ガーデニング」も履修することが望ましい。 園芸療法士の資格認定を受けようとする受講生は、「園芸論」「園芸療法」「ガーデニング」「園芸療法実習Ⅰ」「園芸療法実習Ⅱ」の単位を取得することが必要となる。				
研究室	1 号館 1 階 非常勤講師控室		オフィスアワー	授業終了後、質問を受け付ける	

				授業形態	実習	開講年次	1 年次	
授業科目名		園芸療法実習Ⅰ		担当教員	田崎 史江			
基本項目	専 攻	科 目 区 分			単 位 数		履修期間	
	理学療法学	理学療法治療学			選択必修	1 単位	後期（30h）	
	作業療法学	作業療法治療学						
	言語聴覚学	社会福祉とリハビリの理念						
授業内容の要約		園芸療法士となるために、園芸療法実習を行い実践から学ぶ。療法の対象者の情報収集、ニーズや課題から目標を設定、園芸療法プログラムの立案、観察方法、特性のとらえ方を体験する。						
学修・教育目標 及び到達目標		1. 園芸療法の対象者のニーズや課題をあげることができる 2. 対象者のニーズや課題に沿った目標設定ができる 3. 植物や園芸作業を用いたアプローチ・サポート方法を考え、実践できる						
授業の進め方 学修上の助言		プリントやワークシートなどの資料を適宜配布し、講義と実習で進めていく。実習では振り返りの時間を取り、理解の確認を行う。本科目は園芸療法実習Ⅱと連続して授業を行う。						
授業時間外に必要な学修		指定された実習計画および実習準備に協力して取り組むこと				必要な時間	30 分以上	
授業計画		1. オリエンテーション 授業の進め方・授業目標の確認 チーム分け 2. ICF：クライアントの情報整理と評価、ICF を用いた演習 3. 園芸療法プログラム実習 1：概要説明、チームでプログラム計画 4. 園芸療法プログラム実習 2：実習と振り返り 5. 園芸療法プログラム実習 3：実習と振り返り 6. 園芸療法プログラム実習 5：実習と振り返り 7. 園芸療法プログラム実習 6：実習と振り返り 8. a：施設訪問 5 b：園芸療法プログラム実習 7：実習と振り返り 9. a：施設訪問 6 b：施設訪問計画 10. 畑の管理（施肥） 11. a：施設訪問 7 b：園芸療法プログラム体験の準備 12. 園芸療法プログラム体験「クリスマスリース」 13. 冬休み課題の説明、園芸療法プログラム体験「門松・しめ縄」 14. 期末試験について、収穫祭 定 期 試 験 15. 総括及びフィードバック（定期試験の解答・解説）						
成績評価方法	項目	□課題・小テスト %		■レポート 20%		■定期試験 70%		■その他 10%
	内 容			施設訪問時のレポート、園芸療法評価表を課す。		定期試験を実施し、授業内容の理解度を評価する。		欠席・遅刻、授業態度により減点する。
教科書		著者		タイトル		出版社		発行年
参考文献		山根寛 ほか		「園芸リハビリテーション」		医歯薬出版株式会社		2003
		山根寛		「ひとと植物・環境 療法として園芸を使う」		青海社		2009
履修要件等		「園芸療法」「園芸論」「ガーデニング」が履修済みであることが望ましい。 園芸療法士の資格認定を受けようとする受講生は、「園芸論」「園芸療法」「ガーデニング」「園芸療法実習Ⅰ」「園芸療法実習Ⅱ」の単位を取得することが必要となる。						
研究室		1 号館 5 階 第 2 共同研究室			オフィスアワー	毎週火曜日 12:00～13:00		

			授業形態	実習	開講年次	1 年次
授業科目名	園芸療法実習Ⅱ		担当教員	村井 恵		
基本項目	専 攻	科 目 区 分		単 位 数		履修期間
	理学療法学	理学療法治療学		選択必修	1 単位	後期（30h）
	作業療法学	作業療法治療学				
	言語聴覚学	社会福祉とリハビリの理念				
授業内容の要約	園芸療法を行うために、植物の栽培・管理などの基礎的園芸作業の理解と技術を習得する。季節に応じた植物の選択と育て方、庭や畑の管理、園芸療法プログラムの計画・実践を通じて学ぶ。					
学修・教育目標 及び到達目標	1. 園芸植物の栽培・管理ができる 2. 植物の利活用方法を提案・指導できる 3. 園芸作業の身体・精神・認知・社会機能面を整理して考えることができる					
授業の進め方 学修上の助言	主に第1・2 イネーブルガーデンにて授業を行う。天候により内容が変更になる場合もある。資料を適宜配布し、講義と実習で進めていく。受講者は作業に適した服装（汚れても良い長袖・長ズボン・長靴・軍手・帽子など）で参加すること。本科目は園芸療法実習Ⅰと連続して授業を行う。					
授業時間外に必要な学修	通常より植物管理・植物利用について関心を持つこと。				必要な時間	30 分以上
授業計画	1. 畑の土づくり 2. 冬野菜の苗の定植、播種 3. 畑の管理 4. 畑の管理 5. 園芸療法プログラム実習4 実習と振り返り 6. 畑の管理（施肥） 7. 施設訪問計画 8. a:施設訪問のフィードバック b:畑の管理 9. a:施設訪問のフィードバック b:畑の管理 10. 園芸療法プログラム体験「秋冬の花苗と球根の寄せ植え」 11. a:施設訪問のフィードバック b:畑の管理 12. 暦について 13. 収穫祭プランニング 14. 収穫祭 畑の片づけ 定 期 試 験 15. 総括及びフィードバック（定期試験の解答・解説）					
成績評価方法	項目	□課題・小テスト %		□レポート %		■定期試験 80 %
	内 容					■その他 20 % 授業や畑での作業への取り組みを「その他」で評価する。 欠席・遅刻は減点対象とする。
教科書	著者	タイトル			出版社	発行年
	菅野紹雄	「失敗しない野菜栽培」			サカタのタネ	2008
参考文献	高月美樹	「にっぽんの七十二候」			柊出版社	2015
履修要件等	「園芸療法」「園芸論」「ガーデニング」が履修済みであることが望ましい。 園芸療法士の資格認定を受けようとする受講生は、「園芸療法」「園芸論」「ガーデニング」「園芸療法実習Ⅰ」「園芸療法実習Ⅱ」の単位を取得することが必要となる。					
研究室	1 号館 1 階 非常勤講師控室		オフィスアワー	授業終了後、質問を受け付ける		

				授業形態	講義	開講年次	1 年次
授業科目名		理学療法学概論			担当教員	古井 透	
基本項目		専 攻	科 目 区 分			単 位 数	
		理学療法学	基礎理学療法学			必 修	1 単位
履修期間		前期 (30h)					
授業内容の要約		医療職としての覚悟を決め、セラピストになるための動機づけを強化する。リハビリテーション過程での理学療法を概観し、理学療法士の現実を学び、本学 4 年間の課程における KEY を発見する。					
学修・教育目標 及び到達目標		1. 障害について客観的な認識を身につけ、それを自分の言葉で家族に説明できるようになる 2. 理学療法士は OT・ST とどの部分が共通で、どの部分が違うのか説明できるようになる 3. 理学療法士になるための具体的ビジョンを獲得し、生き方のはばを広げる					
授業の進め方 学修上の助言		これから理学療法を学ぶ為の基礎科目なので、真剣に取り組み、積極的に授業に臨むこと。 授業は教科書を発展させた講義形式と体験学習や演習を含む「感じる」授業を心がけて進める。					
授業時間外に必要な学修		事前に教科書の該当部分を熟読し、疑問点をまとめてくる。				必要な時間	30 分以上
授業計画		1. 理学療法とは・・・1990 年地域で働いていた理学療法士の仕事(pp 1-22,pp 83-88)、 2. 演習(1)・・・立ち上がり動作 → グループワーク・発表 3. 理学療法士の役割と臨床思考 (国家試験必出内容) (pp 29-60) 4. 【特別講義】一般病院での理学療法(pp 91-113、148-163) 5. 医療の現場を知る・・・医療保険と急性期・回復期・療養期病院 (pp 75－82、 pp 169-177) 6. 法律から職種の違いを知る・・・理学療法のモダリティ・作業療法・言語聴覚療法 (pp 23-28、 pp 3-6) 7. 教育・研究・スポーツの現場を知る・・・理学療法士教育とは (pp 88-94、 pp 105-127) 8. 【特別講義】大学病院での理学療法(pp 91-147) 9. 障がいモデルと多職種連携 (pp 14-22、 pp 31-37) 10. 理学療法の流れ (pp 61-74) 11. 演習(2)・・・実験的廃用体験 → グループワーク・発表 12. 演習(3)・・・筋肉ポンプ・呼吸ポンプ→ グループワーク・発表 13. 実習(4)・・・ 観察と筋の触診 → グループワーク・発表 14. 演習(5)・・・ICF 構造 → グループワーク・発表 定 期 試 験 15. 試験内容の解説および総括					
成績評価方法	項目	□課題・小テスト %		■レポート 20%		■定期試験 70%	
	内容			臨床講師の講義レポートに示された内容・姿勢・覚悟を評価する		障害論の理解度や理学療法士の基礎認識の到達度を評価する	
						■その他 10%	
						授業中の発言や積極性を評価する	
教科書		著者	タイトル			出版社	発行年
		中島喜代彦他	理学療法概論テキスト 改訂 3 版			南光堂	2017
参考文献		斉藤 孝	1 分で大切なことを伝える技術			PHP 研究所	2011
		住居広士 (編)、古井透 ほか	見てよくわかるリハビリテーション介護技術			一橋出版	2001
		古井 透	リハビリテーションの誤算 (pp 136-148)			現代思想 11 月号 (青土社)	2003
履修要件等							
研究室		1 号館 5 階 第 20 研究室			オフィスアワー	毎週火曜日 11：40～12：40	

				授業形態	講義	開講年次	1 年次
授業科目名		基礎運動学		担当教員	小峯 武陸 ・ 岡 健司		
基本項目		専 攻	科 目 区 分		単 位 数		履修期間
		理学療法学	基礎理学療法学		必 修	1 単位	後期 (30h)
授業内容の要約		運動学は人間の身体運動のしくみを理解する学問であり、基礎理学療法学における柱の一つである。この授業科目「基礎運動学」では、身体運動を成り立たせる関節運動、身体運動を、数学的・物理学的立場から解釈する視点を身につけることを目的とする。					
学修・教育目標 及び到達目標		1. 力学的視点から、関節運動の特徴を理解する 2. 単関節運動を成立させる骨関節構造と力学的背景を理解する					
授業の進め方 学修上の助言		基礎運動学実習と連動した授業とする。 随時、授業内容の確認小テストを実施する。 授業内容に疑問などがあれば、積極的に質問にくること。					
授業時間外に必要な学修		授業内容の予習・復習。				必要な時間	30 分以上
授業計画		1. 力学の基礎Ⅰ（並進運動と回転運動／距離・速度・加速度・躍度／角度・角速度・角加速度） 2. 力学の基礎Ⅱ（スカラー、ベクトル、三角関数） 3. 力学の基礎Ⅲ（ニュートンの運動3法則） 4. 力学の基礎Ⅳ（テコの原理と力のモーメント（トルク）） 5. 力学の基礎Ⅴ（物体の質量分布と質量中心（重心）／重心と支持面・支持基底面） 6. 力学の基礎Ⅵ（運動量と力積／仕事・仕事率とエネルギー） 7. バイオメカニクスの基礎Ⅰ（テコの原理と関節の作用、関節内力と反力） 8. バイオメカニクスの基礎Ⅱ（骨・関節／関節包内運動／関節における凹凸の法則） 9. バイオメカニクスの基礎Ⅲ（OKC（開放運動連鎖）とCKC（閉鎖運動連鎖）／フィードバック機構とフィードフォワード機構） 10. バイオメカニクスの基礎Ⅳ（重心と支持基底面の関係／転倒／中殿筋歩行） 11. 前回までのまとめ 12. 姿勢・基本動作における関節運動Ⅰ（立ち上がり動作時の身体関節運動） 13. 基本動作における関節運動Ⅱ（歩行の概要／歩行周期／歩行時の身体関節運動Ⅰ） 14. 基本動作における関節運動Ⅲ（歩行時の身体関節運動Ⅱ） 定 期 試 験 15. 総括及びフィードバック（定期試験の回答・解説）					
成績評価方法	項目	■課題・小テスト 40%		□レポート %	■定期試験 60%		□その他 %
	内 容	授業内での小テスト			筆記試験		
教科書		著者	タイトル			出版社	発行年
		上杉雅之監修	「実践！動作分析」			医歯薬出版	2016
参考文献		江原義弘他	身体運動の理解につなげる物理学			南江堂	2015
		中村隆一他	基礎運動学第6版			医歯薬出版	2007
履修要件等							
研究室		小峯：1号館4階第3研究室 岡：1号館4階第3研究室		オフィスアワー	小峯：毎週木曜日 12：10～13：00 岡：毎週火曜日 12：10～13：00		

				授業形態	実習	開講年次	1 年次	
授業科目名		基礎運動学実習		担当教員	小 峯 武 陸 ・ 岡 健 司			
基本項目	専 攻	科 目 区 分			単 位 数		履修期間	
	理学療法学	基礎理学療法学			必 修	1 単位	後期 (30h)	
授業内容の要約		基礎運動学実習とは基礎運動学で学習した内容を自己の身体や他者の身体を扱うことで、知識を整理することで、人間の身体運動のしくみを理解する学問である。この基礎運動学実習では、日常生活にあふれる自然科学の現象にふれ、身近な生活の中で、現象学的立場に立って観察の視点や実際の動作を体得することを目的とする。						
学修・教育目標 及び到達目標		1. 身近な環境や生活が自然科学であること認識できる 2. 自然科学を観察するために数学・物理学的視点の重要性を理解できる						
授業の進め方 学修上の助言		適切な出席状況と授業態度対応が難しい学生には、厳重に注意を促す。 講義と実技を混ぜながら行うため、迅速に行動を行うようにすること。						
授業時間外に必要な学修		授業内容の復習 (特に異常歩行の実技について)				必要な時間	60 分以上	
授業計画		1. 力学の基礎Ⅰ (キネマティクスを図画化する) 2. 力学の基礎Ⅱ (キネティクスを図画化する) 3. 力学の基礎Ⅲ (ニュートンの法則を図画化する) 4. 力学の基礎Ⅳ (テコの原理を図画化する) 5. 力学の基礎Ⅴ (質量中心の演習と支持基底面を図画化する) 6. 力学の基礎Ⅵ (1～5までのまとめと演習) 7. 基礎バイオメカニクス (下肢運動のランドマークと ROMⅠ) 8. 基礎バイオメカニクス (下肢運動のランドマークと ROMⅡ) 9. 基礎バイオメカニクス (下肢運動のランドマークと ROMⅢ) 10. 基礎バイオメカニクス (上肢運動のランドマークと ROMⅠ) 11. 基礎バイオメカニクス (上肢運動のランドマークと ROMⅡ) 12. 基本動作における関節運動 (立ち上がりキネマティクスを図画化する) 13. 基本動作における関節運動 (歩行Ⅰキネマティクスを図画化する) 14. 基本動作における関節運動 (歩行Ⅱキネマティクスを図画化する) 定 期 試 験 15. 総括及びフィードバック (定期試験の解答・解説)						
成績評価方法	項目	■課題・小テスト 20%		■レポート 20%		■定期試験 60%		□その他 %
	内 容	授業中の課題実技		骨指標のレポート 異常歩行のレポート		骨指標の実技 異常歩行の実技		
教科書		著者	タイトル			出版社		発行年
		上杉雅之監修	「実践！動作分析」			医歯薬出版		2016
参考文献								
履修要件等								
研究室		小 峯：1 号館 4 階第 3 研究室 岡：1 号館 4 階第 3 研究室		オフィスアワー		小 峯：毎週木曜日 12：10～13：00 岡：毎週火曜日 12：10～13：00		

		授業形態	演習	開講年次	1 年次
授業科目名	理学療法計測法		担当教員	肥田 光正	
基本項目	専 攻	科 目 区 分		単 位 数	
	理学療法学	理学療法評価学		必 修	2 単位
履修期間	後期（30h）				
授業内容の要約	理学療法評価の一手段である検査・測定のうち、本講では、身体計測、関節可動域測定について、その意義・目的・方法・手順・結果の解釈・注意事項などを学習する。				
学修・教育目標 及び到達目標	1. 使用器具の取り扱いに注意し、計測（測定）することができる 2. 形態計測や関節可動域測定法の方法・手順・注意事項を理解し、健常者に対して正確に測定を実施できる。				
授業の進め方 学修上の助言	”講義と実技練習を行う。また、授業の復習のため、授業開始前に小テストを実施する。授業では、骨指標を触察する。骨の名称と部位を復習しておくことが望ましい。”				
授業時間外に必要な学修	小テストのため復習を行うこと。また授業で学習した実技を繰り返し練習しておくこと			必要な時間	30 分以上
授業計画	1. 計測法総論、医療面接 2. 形態計測（1）身長・体重・BMI・四肢長（上肢） 3. 形態計測（2）四肢長（下肢）・周径 4. 関節可動域測定時の注意事項 他 5. 関節可動域測定（1）上肢（肩関節） 6. 関節可動域測定（2）上肢（肩関節、肘関節） 7. 関節可動域測定（3）上肢（前腕、手関節） 8. 関節可動域測定（4）上肢（手指） 9. 関節可動域測定（5）下肢（股関節） 10. 関節可動域測定（6）下肢（膝関節、足関節） 12. 関節可動域測定（7）下肢（足部、足指） 13. 関節可動域測定（8）肩甲帯・頸部・体幹 14. 形態測定・関節可動域の総合復習演習 期 末 試 験 15. 総括およびフィードバック（定期試験の解答・解説）				
成績評価方法	項目	■課題・小テスト 35 %		□レポート %	■定期試験 60 %
	内 容	毎回の授業開始時には、小テストを実施する。また実技試験を実施する。			■その他 5 %
教科書	著者	タイトル		出版社	発行年
	潮見泰藏ほか	「リハビリテーション基礎評価学」		羊土社	2014
参考文献	内山 靖	《標準理学療法学 専門分野》理学療法評価学		医学書院	2004
履修要件等					
研究室	3 号館 2 階 第 27 研究室		オフィスアワー	毎週月曜日 12：00 ～ 14：30	

				授業形態	講義	開講年次	1 年次	
授業科目名		物理療法学		担当教員	肥田 光正			
基本項目		専 攻	科 目 区 分		単 位 数		履修期間	
		理学療法学	理学療法治療学		必 修	1 単位	後期 (30h)	
授業内容の要約		理学療法の治療手段である物理療法について、その歴史と定義をふまえ、各物理療法手段における生理学的作用・目的・対象・適応・禁忌などを学習し、実際の治療にどのように適応していくことができるのかを学習する。						
学修・教育目標 及び到達目標		1. 物理療法の歴史と定義を学習し、理学療法での位置付けを学習する 2. 各物理療法手段の生理学的作用を理解する 3. 各物理療法手段の目的・対象・適応・禁忌などを理解する						
授業の進め方 学修上の助言		講義中心に授業をすすめ、必要時には、適宜、資料を配布する。授業後、教科書を再度読み、理解を深めること。						
授業時間外に必要な学修		各講義開始時には前回の授業の復習のための小テストを実施する。 復習をしておくこと。				必要な時間	30 分以上	
授業計画		1. 物理療法総論 熱力学の基礎、物理療法の歴史と定義、理学療法における位置付けや役割 2. 物理療法が適用される病態 ①炎症とは 3. 物理療法が適用される病態 ②痛みとは 4. 物理療法が適用される病態 ③筋緊張とは 5. 物理療法が適用される病態 ④運動制限とは 6. 物理療法各論 ①温熱療法 ー表在性温熱ー 7. 物理療法各論 ②温熱療法 ー深達性温熱ー 8. 物理療法各論 ③寒冷療法 9. 物理療法各論 ④電気刺激療法 ー電気診断 (SD 曲線) ー 10. 物理療法各論 ⑤電気刺激療法 TENS 11. 物理療法各論 ⑥電気刺激療法 NMES 12. 物理療法各論 力学的牽引療法・バイオフィードバック療法 13. 物理療法各論 水治療法 14. 物理療法各論 圧迫療法 定 期 試 験 15. 総括およびフィードバック (定期試験の解答・解説)						
成績評価方法	項目	■課題・小テスト 10%		■レポート 10%		■定期試験 70%		■その他 10 %
	内 容	授業開始時に小テストを実施する。		授業時間内にレポート課題を提示する。提出状況や内容を吟味する。		授業で教授した範囲から出題する。		授業態度、授業参加の積極性を総合して評価する。
教科書		著者		タイトル		出版社		発行年
		庄本康二ほか		エビデンスから身につける物理療法		羊土社		2017
参考文献		松澤 正ほか		「物理療法学」		金原出版		2012
		Michelle H. Cameron 原著／渡部一郎 訳		EBM 物理療法		医歯薬出版		2015
履修要件等								
研究室		3 号館 2 階 第 27 研究室			オフィスアワー	毎週月曜日 12:00 ～ 14:30		

		授業形態	講義	開講年次	1 年次
授業科目名	運動療法学総論		担当教員	森藤 武	
基本項目	専 攻	科 目 区 分		単 位 数	
	理学療法学	理学療法治療学		必 修	1 単位
履修期間		後期（30h）			
授業内容の要約		理学療法の根幹をなす運動療法の基本的な知識、理論、方法を学習し、「運動療法学実習」や障害別理学療法の基礎を構築する			
学修・教育目標及び到達目標		1. 各運動療法の対象となる障害を想起できる 2. 各種運動療法の理論について説明できる 3. 各運動療法の方法について説明できる			
授業の進め方 学修上の助言		・講義中心に授業を進める ・本講義の受講に先立ち、解剖、運動、生理学の理解を深めておくことが望ましい			
授業時間外に必要な学修		授業の復習		必要な時間	30 分以上
授業計画		1. 運動療法とは、運動療法の禁忌 2. 運動の効果、二次障害の予防、トレーニングの基礎理論 3. 関節の機能と障害 4. 関節可動域訓とは、維持を目的とした関節可動域訓練 5. 改善を目的とした関節可動域訓練（伸張訓練） 6. 筋力増強訓練とは、筋力を決定する因子、筋力増強のメカニズム 7. 筋力に影響を及ぼす因子 8. 筋力増強訓練の基本原則、各種方法論 9. 筋力増強訓練の実際 10. 筋持久力訓練 11. 運動制御と運動学習 12. 協調性訓練 13. 全身調整訓練 14. 全身持久力訓練 定 期 試 験 15. 総括及びフィードバック（定期試験の解答・解説）			
成績評価方法	項目	■小テスト 30%	□レポート %	■定期試験 70 %	□その他 %
	内 容	講義の理解を深めるため、小テストを実施する		定期試験で講義全般の理解度を評価する	
教科書		著者	タイトル	出版社	発行年
		細田多穂ほか	「シンプル理学療法シリーズ 運動療法学テキスト改訂第 2 版」	南江堂	2015
参考文献		吉尾雅春ほか	「標準理学療法学 運動療法学総論第 3 版」	医学書院	2010
履修要件等					
研究室		1 号館 5 階第 8 研究室	オフィスアワー	毎週水曜日 12:00～13:00	

		授業形態	演習	開講年次	1 年次
授業科目名	臨床ゼミ I (PT)		担当教員	古井 透・中村 美砂・肥田 光正	
基本項目	専 攻	科 目 区 分		単 位 数	
	理学療法学	臨床実習		必 修	1 単位
授業内容の要約	「自己表出し、人間関係を作る力」、「分類し、系統立てる力」を身につけるため、3 施設の関連施設見学で体験した内容を踏まえて考察し、発表する。				
学修・教育目標 及び到達目標	1. 理学療法士の職域、理学療法士と他職種との連携のあり方を説明することができる 2. 社会人及び理学療法士を志す学生としての基本的な振る舞いができる 3. コミュニケーション能力の向上を目指す				
授業の進め方 学修上の助言	本科目はリハビリテーション・理学療法の現場に臨む準備のための科目であることを理解しておくこと。臨床実習に活かせるように、積極的にグループワークに参画し他者との意見交換や交流の重要性を学び、コミュニケーション能力の向上を目指す。				
授業時間外に必要な学修	関連施設に関する情報収集など。			必要な時間	30 分以上
授業計画	1. 新入生研修を通じて、学生間のつながりをつくる ① 2. 新入生研修を通じて、学生間のつながりをつくる ② 3. オリエンテーション、自己紹介 4. 集団活動（体育祭の準備等）を通じた学生間連携、「バリアフリー2018」見学説明 5. 演習：「バリアフリー2018」見学 ① 6. 演習：「バリアフリー2018」見学 ② 7. 演習：集団活動（体育祭）を通じた学生間連携・チームワーク 8. 演習：言葉遣い、身だしなみ、振舞い 9. 発表課題の説明 【手引き】、見学マナー 10. 演習：関連施設見学の発表準備、発表の練習 11. 発表 「関連施設見学」 12. 発表 「関連施設見学」 13. 演習「バリアフリー2018 発表 」 14. 演習「バリアフリー2018 発表 」 15. バリアフリー展、関連施設見学に関する総復習				
成績評価方法	項目	■課題・小テスト 50%	□レポート %	□定期試験 %	■その他 50 %
	内 容	各演習の達成度を50%とする。			関連施設見学の見学態度を10%、関連施設見学のプレゼンを40%とする。
教科書	著者	タイトル		出版社	
	なし				
参考文献		関連施設見学の手引き		大阪河崎リハビリテーション大学	2018
履修要件等	この科目の単位を修得しないと、臨床見学実習の履修は認められない。				
研究室	各担当教員 研究室		オフィスアワー	各担当教員 オフィスアワー	

				授業形態	演習	開講年次	1 年次
授業科目名		臨床実習指導 I (PT)		担当教員	古井 透 ・ 肥田 光正		
基本項目		専 攻	科 目 区 分		単 位 数		履修期間
		理学療法学	臨床実習		必 修	1 単位	後期 (30h)
授業内容の要約		臨床実習に参加するにあたり、注意事項を遵守し、実習生としての基本的な実習態度、医療現場における心構えなどを学ぶ。臨床見学実習での学習のポイント、視点を学ぶ。					
学修・教育目標 及び到達目標		1. 臨床見学実習の全体像を把握し、意義・目的を理解する 2. 臨床見学実習に参加するための心構え・態度を身に付ける 3. 実習目標に沿って、どのような視点で実習に参加するのかを学ぶ 4. 理学療法の目的・対象・専門性、および障害構造を理解する					
授業の進め方 学修上の助言		講義・演習を主とする。 本科目は、臨床見学実習に参加するための重要不可欠な科目であることを理解しておくこと。					
授業時間外に必要な学修		指定された範囲の教科書を予め読んでおくこと				必要な時間	30 分以上
授業計画		1.臨床実習指導 I オリエンテーション 2.臨床実習に必要な解剖学的知識の復習 (骨・関節) 3.臨床実習に必要な解剖学的知識の復習 (筋) 4.臨床実習に必要な運動学的知識の復習 (基本的な運動学的用語) 5.臨床実習に必要な知識の復習 ICF の説明 6.臨床実習に必要な知識の復習 ICF のグループ発表 7.臨床実習概論 1 (実習の目的・位置づけ, 実習までのタイムスケジュール) 8.臨床実習概論 2 (実習中の基本的態度、身だしなみ) 9.臨床実習概論 3 (非常事態時の対応, 実習中の責務、個人情報保護について) 10.臨床見学実習について 1 (実習の目標、確認テスト) 11.臨床見学実習について 2 (実習課題と提出物) 12.臨床見学実習について 3 (実習中の見学・観察のポイント、デイリーノートの書き方) 13.臨床見学実習について 4 (学生紹介書の書き方、実習前報告の書き方、挨拶電話のかけ方) 14.臨床見学実習について 5 (実習前ガイダンス、提出物の配布) 15.臨床見学実習 報告会 (実習後セミナー、礼状の書き方、実習報告会)					
成績評価方法	項目	■課題・小テスト 30%		■レポート 30 %		□定期試験 %	■その他 40 %
	内 容	実習に必要な解剖学・運動学などの復習課題の発表内容を吟味する。		実習に必要な書類を含むレポートの提出状況や内容を吟味する。			出席状況や授業態度を総合的に吟味する。
教科書		著者	タイトル			出版社	発行年
			「大阪河崎リハビリテーション大学理学療法学専攻：実習の手引き」				
参考文献			適宜配布				
履修要件等		「臨床ゼミ I」の単位取得が前提					
研究室		古井：1 号館 5 階 第 20 研究室 肥田：3 号館 2 階 第 27 研究室			オフィスアワー	古井：毎週火曜日 11：40～12：40 肥田：毎週火曜日 13：00～14：30	

				授業形態	実習	開講年次	1 年次	
授業科目名		臨床見学実習（PT）		担当教員	酒井 桂太・理学療法学専攻教員			
基本項目		専 攻	科 目 区 分		単 位 数		履修期間	
		理学療法学	臨床実習		必 修	1 単位	後期（45h） 1 週間	
授業内容の要約		見学を通して、病院・施設における理学療法の役割について理解する。対象者の障害像を認識する。対象者やスタッフに信頼される行動・態度を体験する。						
学修・教育目標 及び到達目標		1. コミュニケーション・接遇を学ぶ 2. チームワークを学ぶ 3. 疾患と障害の構造を学ぶ 4. 理学療法士の役割を学ぶ 5. 一部の検査測定の実験を通し理解を深める						
授業の進め方 学修上の助言		実地体験学習。他者との関わり合いをもつことへの積極性が大切である。実習の手引きをよく確認すること。臨床実習ですので自ら学ぶ姿勢で実習に取り組んでいただきたい。なお、実習後のセミナーも実習中である意識をしっかりとっていただきたい。						
授業時間外に必要な学修		後期に学習した検査測定の実技の練習をしてください。				必要な時間	90 分以上	
授業計画		1 週にわたり病院・施設で見学実習を行う。実習後にセミナーにて課題発表会を行う。						
成績評価方法	項目	□課題・小テスト %		□レポート %		□定期試験 %		■その他 100 %
	内 容							実習の手引きに準ずる
教科書		著者	タイトル			出版社		発行年
			「大阪河崎リハビリテーション大学 理学療法学専攻：実習の手引き第4版」					
参考文献								
履修要件等		実習要件 1) を満たしていること						
研究室		1 号館 1 階 理学療法専攻長室			オフィスアワー	毎週月曜日 14：40～16：10		

				授業形態	演習	開講年次	1 年次		
授業科目名		地域支援学実習		担当教員	久利 彩子 ・ 森藤 武				
基本項目	専 攻	科 目 区 分			単 位 数		履修期間		
	理学療法学	地域・予防医学的リハビリテーション			選択必修	1 単位	前期 (30h)		
授業内容の要約		学外の組織と連携し、当該組織の主に地域における移動についての問題解決に主体的に関与する。学外の組織と連携して一定の成果物を作成し、かつ、関与した事象に関する学外への情報発信を行う。							
学修・教育目標 及び到達目標		1. 地域生活に重要な視点について、障がい者の視点から考えることができるようになる。 2. 世代間や異職種間の交流を通じ、問題解決能力とコミュニケーション能力を育む。 3. 関与した事象に関する学外への情報発信スキルを育む。							
授業の進め方 学修上の助言		「地域支援学実習」は、アクティブ・ラーニングを実施する。主に本学地域周辺でのフィールドワークが中心となる。学外の組織と連携し、当該組織の問題解決に主体的に関与する。通常授業時間以外（土曜日）でも開講予定。							
授業時間外に必要な学修		日頃から、論理的思考や、自らの情報発信力について、意識的に考えるようにすること。				必要な時間	30 分以上		
授業計画		1. オリエンテーション、フィールドワーク 1、2 の計画 2. フィールドワーク 1（予定：大学キャンパス内のトイレへのアクセスチェックなど） 3. フィールドワーク 1 のまとめ 4. フィールドワーク 2（予定：大学周辺と大学の最寄り駅におけるトイレへのアクセスなど） 5. フィールドワーク 2 のまとめ 6. フィールドワーク 1、2 の振り返りと、フィールドワーク 3、4 の計画 7. フィールドワーク 3（予定：水間鉄道沿線におけるトイレへのアクセスなど） 8. フィールドワーク 3 のまとめ 9. フィールドワーク 4（予定：水間鉄道沿線におけるトイレへのアクセスなど） 10. フィールドワーク 4 のまとめ 11. フィールドワーク 1～4 の振り返りと、フィールドワーク 5 の計画 12. フィールドワーク 5（予定：水間鉄道沿線におけるトイレへのアクセスなど） 13. フィールドワーク 5 のまとめ 14. 全フィールドワークについての成果物の作成 15. 全フィールドワークについての学外への情報発信							
成績評価方法	項目	□課題・小テスト	%	□レポート	%	□定期試験	%	■その他	100%
	内容							試験は実施しません。授業への参加状況や取り組み姿勢などを総合的に評価します。	
教科書		著者	タイトル			出版社		発行年	
参考文献									
履修要件等		開講日は別途お知らせします。開講日は天候に左右されます。学外の組織と協調してフィールドワークを中心に実施します。世代間交流や異職種間交流があります。気配り目配り心配りがとても重要です。物事への探究心は必須です。大阪市内で毎年行われている学生フォーラムでの成果発表を予定しています（発表は第 15 回目としてカウント）。交通費の一部は大学が支援します。							
研究室		久利：1 号館 5 階 第 9 研究室 森藤：3 号館 2 階 第 31 研究室			オフィスアワー	久利：毎週火曜日 12：20～12：50 森藤：毎週火曜日 12：00～13：00			

		授業形態	講義	開講年次	1 年次
授業科目名	作業療法学概論		担当教員	谷口 英治	
基本項目	専 攻	科 目 区 分		単 位 数	
	作業療法学	基礎作業療法学		必 修	1 単位
履修期間	前期 (30h)				
授業内容の要約	作業療法と作業療法士を取り巻く状況と歴史や法制度を概括しつつ、作業療法の基本的概念とその対象、作業療法の流れやアプローチの概要について学修する。				
学修・教育目標 及び到達目標	1. 早期より作業療法への理解に強い動機付けをもって積極的に学修に参画できる 2. 作業・作業療法・作業療法士の役割、目的を理解できる 3. 作業療法の過去、現在、未来を理解できる 4. 作業療法の関連法規を理解できる 5. 作業療法の対象と障害を理解できる 6. 作業療法の流れとアプローチを理解できる 7. 各障害領域別作業療法を理解できる 8. 対象者の立場にたった態度を身付けることができる				
授業の進め方 学修上の助言	初年次の早期より積極的に作業療法の理解に取り組んでいけるように、各学修課題の事前学習・当日の授業への積極的な参加、課題レポート作成等に力を尽くしてもらいたい。グループ課題もあるので、日頃よりクラス仲間との交流を図り相互信頼関係を深めていただきたい。授業全般を通して学生の能動的な授業への参加と取り組みを期待する。				
授業時間外に必要な学修	配布した資料、指定された範囲の教科書を予め読んでおくこと			必要な時間	45 分以上
授業計画	1. オリエンテーション・作業療法の概要を知る (VTR) (講義) 2. 作業療法とは (教科書：教と略す pp12～14) 3. 作業療法における人と作業との関わり (教 pp15～20) 4. 作業と作業療法の理解 (教 pp86) 5. 治療手段としての「作業」の意味 (教 pp87～89) (学生発表 1) 6. 障害とは・ICF と作業療法(教 pp87) 7. 作業療法の定義 (教 pp90～93) (発表 2) 8. 作業療法の歴史 (教科書 pp22～33) 9. 作業療法の法・制度 (教 pp13,81,90) (発表 3) 10. 作業療法の流れ (実践過程と実施) (講義) 11. 各障害領域別作業療法の理解 1 (教 pp96～110) (発表 4) 12. 各障害領域別作業療法の理解 2 (教 pp111～117) 13. 作業療法と関連する職種について (教 pp220～225 (発表 5) 14. 作業療法部門の管理 (倫理、記録・報告、診療報酬) (教 pp290～310) 定 期 試 験 15. 総括及びフィードバック (定期試験の解答・解説)				
成績評価方法	項目	□課題・小テスト %		□レポート %	■定期試験 100%
	内容	講義終了後に小テスト実施		講義終了後に実施した小テストより出題	
教科書	著者	タイトル		出版社	発行年
	長崎重信監修 里村恵子編集	「改訂第 2 版 作業療法学ゴールドマスター テキスト 作業療法学概論」		メジカルビュー社	2015
参考文献	二木・能登編集	標準作業療法学 作業療法学概論 第 3 版		医学書院	2016
	杉原素子 編	作業療法学全書第 1 巻 作業療法概論第 3 版		協同医書	2010
履修要件等	「ヒトは日々作業をして生活している」ことの意味を考えてください。				
研究室	1 号館 5 階 第 18 研究室		オフィスアワー	毎週月曜日 16：20～17：00	

			授業形態	講義	開講年次	1 年次			
授業科目名	作業療法運動学Ⅰ			担当教員	南 征吾				
基本項目	専 攻	科 目 区 分		単 位 数		履修期間			
	作業療法学	基礎作業療法学		必 修	1 単位	後期（30h）			
授業内容の要約	身体障害分野の作業療法に必要な身体運動の基礎を学ぶ。								
学修・教育目標 及び到達目標	1. 身体運動の基礎を深めることを目指す 2. 作業療法に必要な身体運動機能の分析力を身につけることを目指す								
授業の進め方 学修上の助言	身体運動を捉えて作業療法の実践に関する根拠となる、身体構造を学んでいく。 日常生活から身体の運動の視点をもっておくこと。								
授業時間外に必要な学修	解剖学				必要な時間	30 分以上			
授業計画	1. 運動学の基礎（運動学とは） 2. 運動学の基礎（身体の基本的構造） 3. 運動学の基礎（身体の運動） 4. 股関節（骨と関節構造） 5. 股関節（筋と関節の相互作用） 6. 股関節（まとめ） 7. 膝関節（骨と関節構造） 8. 膝関節（筋と関節の相互作用） 9. 膝関節（まとめ） 10. 足関節（骨と関節構造） 11. 足関節（筋と関節の相互作用） 12. 足関節（まとめ） 13. 歩行（歩行分析） 14. 歩行（筋と関節の相互作用） 定 期 試 験 15. 総括及びフィードバック（定期試験の解答・解説）								
成績評価方法	項目	□課題・小テスト	%	■レポート	30%	■定期試験	60%	■その他	10%
	内 容			各授業に関するレポートがあり、提出物の内容を評価する。		定期試験は筆記試験で実施する。		授業への参加度、定期試験の受験資格を失わない出席が必要である。	
教科書	著者	タイトル			出版社		発行年		
	島田智明（翻訳）	筋骨格系のキネシオロジー			医歯薬出版		2012		
参考文献	塩田悦仁（翻訳）	カラー版カパンジー機能解剖学			医歯薬出版				
履修要件等									
研究室	各担当教員 研究室			オフィスアワー	授業終了後に適宜質問を受け付ける				

				授業形態	講義	開講年次	1 年次
授業科目名		基礎作業学		担当教員	武井 麻喜		
基本項目	専 攻	科 目 区 分			単 位 数		履修期間
	作業療法学	基礎作業療法学			必 修	1 単位	前期（16h）
授業内容の要約		作業療法の基礎になる作業についての知識を身につける。作業療法評価学、治療学や臨床実習に繋がる基礎となる科目である。作業の持つ意味、作業が人に与える影響（身体的・心理的）などについて考えていく。					
学修・教育目標 及び到達目標		1. 作業の定義が説明できる 2. 作業の分類ができる 3. 人と作業の関係を理解し説明ができる 4. 作業分析の概要を理解し説明ができる					
授業の進め方 学修上の助言		講義（パワーポイント）、グループ討論、発表を行う。 積極的なグループ討論をするように。					
授業時間外に必要な学修		前回授業の復習				必要な時間	30 分以上
授業計画		1. 基礎作業学とは、作業とは 2 作業療法における作業（作業の分類） 3. 作業療法における作業（作業の特徴） 4. 人と作業（作業バランス） 5. 作業分析とは（想定課題） 6. 作業分析（作業と道具） 7. 作業の選択（作業とひとの文化） 定 期 試 験 8. 総括及びフィードバック（定期試験の解答・解説）					
成績評価方法	項目	■課題・小テスト 40%		□レポート %	■定期試験 60%		□その他 %
	内 容	毎回グループ討論後のまとめを課題として評価する。			定期試験を実施する。 授業内容全般についての理解度を評価する		
教科書		著者		タイトル		出版社	発行年
参考文献		小林夏子・福田恵美子 編		「標準作業療法学 専門分野 基礎作業学第 2 版」		医学書院	2012
		山根寛		「ひとと作業・作業活動 新版」		三輪書店	2015
履修要件等		「作業療法学概論」を履修していることが望ましい。					
研究室		1 号館 1 階 第 23 研究室		オフィスアワー	毎週月曜日 12:10～13:00		

		授業形態	演習	開講年次	1 年次
授業科目名	基礎作業分析学演習 I		担当教員	嶋野 広一 ・ 水野 貴子	
基本項目	専 攻	科 目 区 分		単 位 数	
	作業療法学	基礎作業療法学		必 修	1 単位
授業内容の要約	作業療法で用いる代表的な作業種目について、その工程や手段を学び、具体的に説明できる。実習の中で、作業に必要とされる道具・材料について学び、作業の持つ特性や人の心を与える影響を考察する。				
学修・教育目標 及び到達目標	1. 具体的に作業活動（手工芸）の工程・手順を実習することで、種目ごとの特徴を説明できる 2. 道具・材料・工程について理解し、分析することができる				
授業の進め方 学修上の助言	実習形式なので汚れてもよい服装にて参加し、授業の邪魔になる行為があれば出席を認めず。基礎作業学を十分に理解しておくこと。				
授業時間外に必要な学修	レポート作成			必要な時間	60 分以上
授業計画	1. 陶芸:基本的工程・土練り(嶋野) 2. 陶芸:土練り・たたら作り(嶋野) 3. 陶芸:玉作り(嶋野) 4. 陶芸:玉作り(嶋野) 5. 陶芸:施釉(嶋野) 6. 陶芸:施釉(嶋野) 7. 革細工:スタンピング・カービング(水野) 8. 革細工:スタンピング・カービング(水野) 9. 革細工:染色・かがり・仕上げ(水野) 10. 革細工:染色・かがり・仕上げ(水野) 11. 木工:基本工程・設計・採寸(嶋野) 12. 木工:切断(嶋野) 13. 木工:切断(嶋野) 14. 木工:組み立て・塗装・仕上げ(嶋野) 定 期 試 験 15. 総括及びフィードバック（定期試験の解答・解説）				
成績評価方法	項目	□課題・小テスト %	■レポート 20 %	■定期試験 50 %	■その他 30 %
	内 容		各種目毎にレポートを課します。	授業内容全般についての理解度を評価します。	完成した作品を評価します。
教科書	著者	タイトル		出版社	発行年
	特になし	特になし		特になし	特になし
参考文献	日本作業療法士協会 編	「作業～その治療的応用～ 改訂第2版」		協同医書出版社	2003
履修要件等	基礎作業学を履修していることが望ましい。				
研究室	嶋野：1 号館 2 階 第 24 研究室 水野：1 号館 5 階 第 2 共同研究室		オフィスアワー	嶋野：毎週水曜日 10：40～12：10 水野：毎週水曜日 12：10～12：50	

				授業形態	演習	開講年次	1 年次		
授業科目名		基礎作業分析学演習Ⅱ		担当教員	水野 貴子・嶋野 広一				
基本項目		専 攻	科 目 区 分		単 位 数		履修期間		
		作業療法学	基礎作業療法学		必 修	1 単位	後期（30h）		
授業内容の要約		作業療法で用いる代表的な作業活動を体験し、作業に必要とされる道具や材料、工程や技法について学び、身体・精神機能に及ぼす影響を考察する。生活で何気なく行っている作業の持つ特性を活かし、対象者に治療として適用している作業療法の面白みを実感する。							
学修・教育目標 及び到達目標		1. 作業活動を体験し、作品を完成することができる 2. 作業活動ごとの特徴が説明できる 3. 運動、知覚、精神機能について作業分析ができる							
授業の進め方 学修上の助言		講義と作業実習を行う。 基礎作業学、基礎作業分析学演習Ⅰの復習をしておくこと。							
授業時間外に必要な学修		レポートと作品の仕上げ				必要な時間	60 分以上		
授業計画		1. ボンボンマスコット：ストラップ人形 1（水野） 2. ボンボンマスコット：ストラップ人形 2（水野） 3. スプールウェビング：ミニマフラー 1（嶋野） 4. スプールウェビング：ミニマフラー 2（嶋野） 5. 編物（カギ針）：ミニたわし 1（嶋野） 6. 編物（カギ針）：ミニたわし 2（嶋野） 7. 裁縫：お手玉 1（水野） 8. 裁縫：お手玉 2（水野） 9. あんでるせん手芸：カゴ 1（水野） 10. あんでるせん手芸：カゴ 2（水野） 11. あんでるせん手芸：カゴ 3（水野） 12. 折り紙：くす玉など（嶋野） 13. 貼り絵：くるくるピクチャー 1（水野） 14. 貼り絵：くるくるピクチャー 2（水野） 15. トランプ：ババ抜きなど（嶋野）、総括（水野）							
成績評価方法	項目	■課題・小テスト 20%		■レポート 80%		□定期試験 %		□その他 %	
	内 容	作業活動ごとに作品を提出すること		作業活動ごとにレポートを提出すること					
教科書		著者	タイトル				出版社	発行	
		講義資料を随時配布する。							
参考文献		浅沼辰志	「作業療法学 ゴールド・マスター・テキスト 2 作業学 改訂第 2 版」				メジカルビュー社	2015	
		小林夏子ほか	「基礎作業学 第 2 版」				医学書院	2012	
		澤田雄二	「作業療法学全書 第 2 巻 基礎作業学 改訂第 3 版」				協同医書出版	2009	
履修要件等		「基礎作業学」「基礎作業分析学演習Ⅰ」が履修済であることが望ましい。							
研究室		1 号館 5 階 第 2 共同研究室		オフィスアワー	毎週水曜日 12：10～12：50				

		授業形態	講義	開講年次	1 年次	
授業科目名	身体障害評価学演習Ⅰ		担当教員	武井 麻喜・嶋野 広一 水野 貴子・田崎 史江		
基本項目	専 攻	科 目 区 分		単 位 数		履修期間
	作業療法学	作業療法評価学		必 修	1 単位	後期（30h）
授業内容の要約	人が作業する際に用いる身体機能を適切に評価することが作業療法のスタートとなる。講義では作業療法評価の基本的な考え方・枠組みを学習する。加えて健常人の生理機能の測定、形態学的測定、おもな関節の関節可動域測定を主に身体機能の基礎評価の技法についても学習する。					
学修・教育目標 及び到達目標	1. 身体障害系の評価の定義と流れや目的・意義を理解し説明ができる 2. 評価計画の立案や統合と解釈について理解し説明ができる 3. 代表的な作業療法の評価の目的、手段を述べることができる 4. 臨床見学実習で対象者と接する前段階において、実習生としての知識、技術、態度を習得する					
授業の進め方 学修上の助言	前半は、パワーポイントを使用した講義、グループ討論を実施する。後半は学生同士がペアになって、実技を実施する。実技は肩や肘が出せるようなシャツ、膝が出せるような下衣（ジーンズ・スカート不可）で参加のこと。各自配布された検査器具を必要に応じて持参すること。					
授業時間外に必要な学修	後半では解剖学の復習、授業後必ず実技の復習しておくこと				必要な時間	60 分以上
授業計画	1. ガイダンス、評価とは（目的、意義、時期）【講義／武井】＜教科書 PP4～13＞ 2. 作業療法と評価（評価項目・ICF）【講義／武井】＜教科書 PP13～16＞ 3. 作業療法と評価（評価計画、評価の手順と手段）【講義／武井】＜教科書 PP16～20＞ 4. 作業療法と評価（統合と解釈、課題の抽出）【講義／武井】＜教科書 PP20～21＞ 5. 作業療法と評価（治療目標、治療計画の立案）【講義／武井】＜教科書 PP21～23＞ 6. 記録・報告の意義と特徴【講義／武井】＜教科書 PP24～25＞ 7. 中間テスト 8. バイタルチェック【実技／武井・嶋野・水野・田崎】＜教科書 PP62～73＞ 9. 形態計測 1・握力測定・ピンチ力測定【実技／武井・嶋野・水野・田崎】＜教科書 PP74～80＞ 10. 形態計測 2【実技／武井・嶋野・水野・田崎】＜教科書 PP74～80＞ 11. 関節可動域テスト／上肢 【実技／武井・嶋野・水野・田崎】＜教科書 PP81～90＞ 12. 関節可動域テスト／上肢・手指 【実技／武井・嶋野・水野・田崎】＜教科書 PP91～92＞ 13. 関節可動域テスト／下肢 【実技／武井・嶋野・水野・田崎】＜教科書 PP92～93＞ 14. 関節可動域テスト／下肢・体幹 【実技／武井・嶋野・水野・田崎】＜教科書 PP94～95＞ 定 期 試 験（実 技 試 験） 15. 総括及びフィードバック（定期試験の解答・解説）					
成績評価方法	項目	■課題・小テスト 20%		□レポート %	■定期試験 50%	■その他 30%
	内 容	前半座学ではグループ討論後のまとめを課題として評価する。			後半実技実習分を定期試験として実技試験を実施する。	第 7 回目に中間テストを実施し、座学の内容についての理解度を評価する。 前半の座学、後半の実技実習を総合的に評価する。
教科書	著者	タイトル		出版社		発行年
	岩崎テル子他	「作業療法評価学 第 2 版」		医学書院		2011
参考文献	佐竹勝 編	「ゴールド・マスター・テキスト 3 作業療法評価学」		メジカルビュー社		2012
履修要件等	「作業療法学概論」「解剖学」「生理学」が履修済であることが望ましい。					
研究室	1 号館 1 階 第 23 研究室（武井）		オフィスアワー	毎週月曜日 12:10～13:00（武井）		

				授業形態	講義	開講年次	1 年次	
授業科目名		精神障害評価学		担当教員	生水 智子			
基本項目		専 攻	科 目 区 分		単 位 数		履修期間	
		作業療法学	作業療法評価学		必 修	1 単位	後期 (16h)	
授業内容の要約		精神障害を持つ対象者を支援するために必要な評価法の基礎的知識について習得する。						
学修・教育目標 及び到達目標		1. 精神障害領域における評価の目的と意義について説明できる 2. 精神障害領域における評価法の種類と適用について説明できる 3. 精神障害領域における評価結果を適切に記録し、報告することができる						
授業の進め方 学修上の助言		山根寛(著)「精神障害と作業療法 第3 版」の第1, 2, 3, 5 章(付表・付録を含む)を中心に学習し、岩崎テル子(著)「標準作業療法学 専門分野 作業療法評価学」で補う。日頃から環境や人に対し興味を持って観察し、教科書の表現と照らし合わせる習慣をつける。						
授業時間外に必要な学修		自分の日常生活を構成する活動について意識を向ける				必要な時間	30 分以上	
授業計画		1. 精神障害と評価 ― 精神的健康と病気・疾患について 2. 精神障害者の生活を支えるために必要な評価 3. 精神障害者に対する観察評価 4. 精神障害者に対する面接評価 5. 精神障害者に対する精神症状評価尺度 6. 精神障害者に対する社会機能評価尺度 7. 精神障害領域における集団の評価 定 期 試 験 8. 総括及びフィードバック (定期試験の解答・解説)						
成績評価方法	項目	□課題・小テスト %		■レポート 10 %		■定期試験 80 %		■その他 10 %
	内 容			授業中に課し、授業終了後に提出		授業 (資料含む)・演習を行った範囲から出題		授業に臨む姿勢、積極性などを総合的に判断する
教科書		著者		タイトル			出版社	発行年
		山根寛		「精神障害と作業療法 第3 版」			三輪書店	2010
		岩崎テル子		「標準作業療法学 専門分野 作業療法評価学」			医学書院	2011
参考文献								
履修要件等		作業療法概論 (1 年次前期科目) を履修していることが望ましい。						
研究室		1 号館 1 階 第 22 研究室			オフィスアワー	各担当教員 オフィスアワー		

		授業形態	講義	開講年次	1 年次	
授業科目名	生活環境・行為学		担当教員	高野 珠栄子・石川 健二		
基本項目	専 攻	科 目 区 分		単 位 数	履修期間	
	作業療法学	作業療法治療学		必 修	1 単位 後期 (30h)	
授業内容の要約	人間生活の営みは“作業”であり、“動作”，“活動”，“行為”は、生態としての生理的作用や情動と深いかわりにより表出される。リハビリテーションは人間の障害構造を心身機能と構造，活動，社会活動の階層で分け，それぞれの健康を維持する技術を概念的に有している。本講義では生活を構成している動作，行為の分析について学ぶ。また生活行為を援助する工夫として環境の概念を理解する。					
学修・教育目標 及び到達目標	1. 動作、活動、行為の概念を理解し、生活の概念を説明することができる 2. ADL・APDL の概念を理解し、説明することができる 3. 障がい者の自宅環境や地域環境についてのバリアとなる要素を推測できる 4. 福祉用具の利用、生活環境の捉え方を概ね理解できる					
授業の進め方 学修上の助言	講義，演習，課題により、生活についての理解を進めていく 生活を構成している要素を自ら想像、考えるように努力する					
授業時間外に必要な学修	グループ演習の際は、グループ間でも復習すること			必要な時間	分以上	
授業計画	1. 生活環境・行為学とは（生活サイクルについて）（高野） 2. ADL（個人生活行為）の基礎について（高野）（教科書 pp4～13） 3. ADL と APPDL（家庭生活行為）について（高野）（教科書 pp13～15） 4. APPDL と ASL（社会生活行為）について（高野）（教科書 pp15～16） 5. 作業療法における ADL 評価の流れ（高野）（教科書 pp17～22） 6. ADL 支援の実際（高野）（教科書 pp17～28） 7. ADL を構成する要素，グループ演習（1）（寝返り）（高野） 8. ADL を構成する要素，グループ演習（2）（片麻痺の寝返り）（高野） 9. ADL を構成する要素，グループ演習（3）（起き上がり）（高野） 10. ADL を構成する要素，グループ演習（4）（片麻痺の起き上がり）（高野） 11. 生活を援助する工夫（石川）（資料） 12. 福祉用具（自助具作成）（石川） 13. 生活環境の概念（石川）教科書 pp292～306 14. まとめ 【高野】 定 期 試 験 15. 総括（フィードバック）					
成績評価方法	項目	■課題・小テスト 20%		□レポート %	■定期試験 80 %	□その他 %
	内 容	課題・小テストを総合的に判定する		定期試験期間に筆記試験を課す		
教科書	著者	タイトル			出版社	発行
	濱口豊太	「日常生活活動・社会生活行為学」			医学書院	2016
	編集委員会	作業療法ジャーナル増刊号(保存版)・テクニカルエイド 生活視点で役立つ選び方使い方			三輪書店	2014
参考文献	石川齊ほか	「作業療法技術ガイド」			文光堂	2011
	伊藤利之	「日常生活活動 ー評価と支援の実際ー」			医歯薬出版株式会社	2010
履修要件等	教科書・資料を必ず持参すること					
研究室	高野：1 号館 5 階 第 13 研究室 石川：3 号館 2 階 第 28 研究室		オフィスアワー	高野：毎週水曜日 13：00～14：30 石川：毎週水曜日 14：40～16：10		

		授業形態	演習	開講年次	1 年次
授業科目名	臨床ゼミ I (OT)		担当教員	中裕 俊介・生水 智子・南 征吾	
基本項目	専 攻	科 目 区 分		単 位 数	
	作業療法学	臨床実習		必 修	1 単位
授業内容の要約	リハビリテーション、作業療法の社会的意義を踏まえ、医療人・作業療法士を目指す心構えなどを学ぶ。また、臨床現場に関わる上で必要な視点を理解する。				
学修・教育目標 及び到達目標	1. 社会性のある態度を身につける 2. 自分の考えを相手に伝えることが出来るようになる 3. 作業療法に興味を持つ				
授業の進め方 学修上の助言	講義、プレゼンテーション、グループワーク、ディスカッションなどを行う。				
授業時間外に必要な学修	関連施設に関する情報収集など。			必要な時間	30 分以上
授業計画	1. 新入生研修を通じて、学生間のつながりをつくる ① 2. 新入生研修を通じて、学生間のつながりをつくる ② 3. オリエンテーション、自己紹介 4. 集団活動（体育祭の準備等）を通じた学生間連携 5. プレゼン課題の説明【手引き】、見学マナー 6. 集団活動（体育祭）を通じた学生間連携・チームワーク ① 7. 集団活動（体育祭）を通じた学生間連携・チームワーク ② 8. 関連施設見学① 見学マナー、言葉遣い、身だしなみ、振舞い 9. 関連施設見学② 発表準備 10. 関連施設見学③ 発表の練習 11. 関連施設見学④ 発表 12. 関連施設見学のまとめ ① 身体障害分野の作業療法 13. 関連施設見学のまとめ ② 精神障害分野の作業療法 14. 関連施設見学のまとめ ② 老年期・発達分野の作業療法 15. 総括				
成績評価方法	項目	■課題・小テスト 50%	□レポート %	□定期試験 %	■その他 50%
	内 容	関連施設見学の見学態度 関連施設見学のプレゼンテーション			学習達成度
教科書	著者	タイトル		出版社	発行年
		特になし			
参考文献		関連施設見学の手引き		大阪河崎リハビリテーション大学	2018
履修要件等	この科目の単位を修得しないと、臨床見学実習の履修は認められない。				
研究室	中裕 3 号館 2 階 第 26 研究室 生水 1 号館 1 階 第 22 研究室 南 3 号館 2 階 第 25 研究室		オフィスアワー	各担当教員 オフィスアワー	

		授業形態	演習	開講年次	1 年次		
授業科目名	臨床実習指導 I (OT)		担当教員	中裕 俊介 ・ 南 征吾・生水 智子			
基本項目	専 攻	科 目 区 分		単 位 数		履修期間	
	作業療法学	臨床実習		必 修	1 単位	後期 (30h)	
授業内容の要約	臨床見学実習での高い学習効果を得るために、臨床現場を観る視点、作業療法士に求められる知識・技能、社会人として求められる常識的態度や心構えなどを学ぶ。						
学修・教育目標 及び到達目標	1. 臨床実習の全体像を理解する 2. 臨床見学実習への心構えや態度を学び、理解する 3. 臨床への興味を持つ						
授業の進め方 学修上の助言	講義、プレゼンテーション、グループワーク、ディスカッション、関連施設の見学などを行う。						
授業時間外に必要な学修	指定された範囲の教科書を予め読んでおくこと。				必要な時間	30 分程度	
授業計画	1. 臨床実習に対するオリエンテーション 2. 臨床実習について① 実習中の基本的態度、身だしなみ 3. 臨床実習について② 欠席・遅刻・早退、非常事態時の対応 4. 臨床実習について③ 人間関係に関すること、実習中の責務 5. 臨床実習について④ 個人情報の保護、健康管理 6. 臨床見学実習について① 実習の目標、評価票 7. 臨床見学実習について② 実習の課題と提出物 8. 臨床見学実習について③ 実習中の見学・観察のポイント 9. 関連施設見学① 河崎病院（急性期病棟・回復期病棟） 10. 関連施設見学② 水間病院（作業療法室・病棟・デイケアセンター） 11. 臨床見学実習について④ デイリーノートの書き方、実習ノートの書き方 12. 臨床見学実習について⑤ 報告会用レジュメの書き方 13. 臨床見学実習前事前準備① 学生紹介書、誓約書、通勤経路報告書の書き方 14. 臨床見学実習前事前準備② 挨拶電話のかけ方、礼状の書き方評価表、経験記録への記述 15. 総括及びフィードバック（全講義の振り返り）						
成績評価方法	項目	■課題・小テスト 30%		■レポート 50%		□定期試験 %	■その他 20%
	内 容	実習関連書類の提出状況		関連施設見学① 関連施設見学②		授業態度	
教科書	著者	タイトル			出版社		発行年
		大阪河崎 リハビリテーション大学 作業療法学専攻；実習の手引き第 3 版			大阪河崎 リハビリテーション大学		2017
参考文献							
履修要件等	この科目の単位を修得しないと、臨床見学実習の履修は認められない。						
研究室	中裕：3 号館 2 階 第 26 研究室 生水：1 号館 1 階 第 22 研究室 南：3 号館 2 階 第 25 研究室			オフィスアワー	各担当教員 オフィスアワー		

		授業形態	実習	開講年次	1 年次
授業科目名	臨床見学実習（OT）		担当教員	谷口 英治 / 作業療法学専攻教員	
基本項目	専 攻	科 目 区 分		単 位 数	
	作業療法学	臨床実習		必 修	1 単位 後期（45h） 1 週間
授業内容の要約	障害分野、精神障害分野、発達障害分野、高齢期障害分野から 1 分野を見学する。実習施設の概要、対象疾患、作業療法の実践内容を見聞、体験すると共に対象者（児）やスタッフへの対応を経験し、2 年次への学修につなげる。				
学修・教育目標 及び到達目標	1. 作業療法と作業療法士の果たす役割について理解できる 2. 臨床体験を通して学修意欲（動機づけ）や作業療法に対する興味・関心を高めることができる 3. 対象者（児）やスタッフに対して責任感のある行動・態度を身につけることができる 4. 実習施設の組織や作業療法部門の運営・管理の概要について理解を深めることができる				
授業の進め方 学修上の助言	実習にふさわしい服装で臨むこと。 臨床実習に準じたマナーや社会性が求められるため医療従事者として責任感のある行動・態度に配慮すること。				
授業時間外に必要な学修	見学施設の概要・方針を調べ、医療従事者の役割を知るため事前準備をしておくこと。自らの実習目的・目標をもつこと。			必要な時間	60 分以上
授業計画	身体障害分野、精神障害分野、発達障害分野、高齢期障害分野から 1 分野の施設で 1 週間の臨床見学実習を実施する				
成績評価方法	項目	□課題・小テスト %	□レポート %	□定期試験 %	■その他 100%
	内 容				① 臨床見学実習評定の結果 ② 臨床見学実習出席日数 ③ 実習内容（実習ノート、実習態度等） ④ 臨床実習指導Ⅰ・セミナーへの参加状況から総合的に評価する。
教科書	著者	タイトル		出版社	発行年
	臨床実習委員会 編	「作業療法学専攻:実習の手引き」 第 4 版		大阪河崎リハビリテーション大学	2017
参考文献		必要に応じて紹介する			
履修要件等	実習要件 1) を満たしていること				
研究室	1 号館 5 階 第 18 研究室・他		オフィスアワー	各実習担当教員 オフィスアワー参照	

				授業形態	講義	開講年次	1 年次		
授業科目名		学習・認知心理学		担当教員	伊藤 一美				
基本項目	専 攻	科 目 区 分			単 位 数		履修期間		
	言語聴覚学	心理学			必 修	2 単位	後期 (45h)		
授業内容の要約		【学習心理学】 私たちの行動は、そのほとんどが過去の経験を通して学習されたものである。その学習がどのように形成されており、どのように私たちの日常生活に影響しているのかを学ぶ。 【認知心理学】 認知心理学とは何か？ 認知というのは、英語の cognitive, cognition の訳で、認知心理学は、人間の心 (mind) を「認知系」の代表として捉え、そのふるまいや働きを広い意味での情報処理的モデルを用いて、明らかにしようという立場をとる心理学である。ここでは、人の行動や心を理解する心理学を学ぶ。							
学修・教育目標 及び到達目標		【学習心理学】 1. 学習とは何かを理解する 2. 学習のメカニズムを知り、行動を分析的に捉える 3. 人間の「こころ」を学習心理学の立場から考える			【認知心理学】 1. 認知心理学の視点を理解する 2. 各テーマの内容を理解する				
授業の進め方 学修上の助言		授業はテキストと配布資料を使用し、演習と講義を含めて行う。 ・授業前に必ずテキストを読み、分からない用語は事項索引や辞書を使用して、調べておくこと。 ・授業後には、配布資料を使用し、復習すること							
授業時間外に必要な学		予習として、授業計画に記載しているテキストの範囲の読了を求めます。				必要な時間	30 分以上		
授業計画		【学習心理学】 1. 学習とは何か 学習の定義について学び、初期学習の重要性を理解する 2. レスポンデント条件付け 古典的条件付けについて学ぶ 3. オペラント条件付け 道具的条件付けについて学ぶ 4. 試行錯誤、洞察学習、般化と弁別 様々な学習の型について学ぶ 5. 強化スケジュール オペラント条件付けにおける教科のしくみを理解する 6. 高次条件付けと学習曲線 高次条件付けと学習の進行過程について学ぶ 7. 学習の転移 学習の転移について学び、実習を通して理解する 8. 学習心理学 総括 【認知心理学】 9. オリエンテーション 認知心理学の歴史的背景を学ぶ 10. 知覚のメカニズム 知覚のメカニズムのうち、とくに視覚のしくみについて学ぶ 11. 記憶のメカニズム (1) 記憶の過程 (符号化・貯蔵・検索) について学ぶ			12. 記憶のメカニズム (2) 記憶の貯蔵・検索過程について二重貯蔵モデルを中心に学ぶ 13. 記憶のメカニズム (3) 記憶障害について学ぶ 14. 概念と言語 概念の構造を説明する理論について学ぶ 15. 知識と表象 知識の表象を説明する理論について学ぶ 16. イメージと空間の情報処理 言語以外の情報である空間の情報処理過程について学ぶ 17. 注意と認知の制御過程 認知の制御過程である注意の機能やメタ認知について学ぶ 18. 文章の理解 文章の理解過程について学ぶ 19. 文章の記憶 文章の記憶のしくみについて学ぶ 20. 思考のメカニズム ―推論― 推論のメカニズムについて学ぶ 21. 思考のメカニズム ―問題解決― 問題解決の過程について学ぶ 22. 思考のメカニズム ―意思決定― 意思決定の過程について学ぶ 定 期 試 験 23. 総括及びフィードバック (定期試験の解答・解説)				
成績評価方法	項目	■課題・小テスト 10%		□レポート %		■定期試験 80%	■その他 10%		
	内容	課題・小テストで評価する。				定期試験にて、授業の理解度を評価する。	授業への参加度や受講態度等で評価する。		
教科書		著者	タイトル			出版社	発行年		
		山内光哉ほか	「グラフィック学習心理学」			サイエンス社	2001		
		森敏昭 ほか	「グラフィック認知心理学」			サイエンス社	1995		
参考文献		高野陽太郎(編)	「認知心理学 2 記憶」			東京大学出版会	1995		
		太田信夫(編)	「記憶の心理学と現代社会」			有斐閣	2006		
履修要件等		とくになし							
研究室		1 号館 1 階 非常勤講師控室			オフィスアワー	授業終了後、質問を受け付ける			

				授業形態	講義	開講年次	1 年次	
授業科目名		音声学		担当教員	新田 香織			
基本項目		専 攻	科 目 区 分		単 位 数		履修期間	
		言語聴覚学	音声言語聴覚医学		必 修	2 単位	後期（60h）	
授業内容の要約		調音（構音）の方法、調音点などを中心に英語・日本語がどのような音システムを持つのかを解説する。発音時に起こる様々な現象にも言及する。日本語と英語をどのような音声記号で表すかを徹底して練習する。国家試験過去問で問題の意味や答え方のポイントなどに習熟できるようにする。						
学修・教育目標 及び到達目標		1. 調音音声学の基礎からしっかりと学び、英語をナチュラルに発音できる 2. 英語調音の知識をもとに、日本語音声の調音を学び、共通点・相違点を理解する 3. 音素と異音の関係を理解し、確認しながら発音できるようにする						
授業の進め方 学修上の助言		理論と実践を組み合わせ、理解を深めるような工夫をする。毎回復習小テストを実施する。英語の単音を習得し、日本語との違いを実感できるようにくり返し、練習をすること。将来、言語聴覚士になったときに役立つように、言葉で音の出し方を説明できるようにする。						
授業時間外に必要な学修		毎回の授業の復習を徹底すること。				必要な時間	60 分以上	
授業計画		1. 音声学とは？ 2. 英語の子音(1) 3. 英語の子音(2) 4. 英語の子音(3) 5. 子音の分類基準 6. 英語の母音(1) 7. 英語の母音(2) 8. 母音の分類基準 9. 復習セッション 10. 音素と単音（異音）、最小対立 11. 音の連鎖・脱落・同化 12. 発音チェック（単語レベル） 13. 発音チェック（文レベル） 14. リズムとイントネーション 15. 中間テスト：録音 16. 中間テスト：筆記				17. 前半のリフレクション 18. 第二次調音 19. 相補分布・自由変異 20. 日本語の子音(1) 21. 日本語の子音(2)・母音 22. 音節とモーラ 23. 日本語の「ん」 24. 促音と長音 25. 日本語音素・異音、国家試験問題 1 26. アクセントとイントネーション 27. 母音と無声化、国家試験問題 2 28. 鼻母音化、母音の無声化 定 期 試 験 29. 総復習 30. 総括及びフィードバック（定期試験の解答・解説）		
成績評価方法	項目	■ 課題・小テスト 50%		□レポート %	■ 定期試験 50%		□その他 %	
	内容	毎回復習課題を出し、小テストを実施。前回の授業の理解度を確認する。			中間テストは音声テスト・記述式を行う。期末試験は記述式とマーク式の 2 種類。			
教科書		著者	タイトル			出版社	発行年	
		斎藤純男	「日本語音声学入門」			三省堂	2013	
参考文献		町田健（編）	「日本語音声学のしくみ」			研究社	2012	
履修要件等								
研究室		1 号館 1 階 非常勤講師控室		オフィスアワー	授業終了後、質問を受け付ける			

				授業形態	講義	開講年次	1 年次	
授業科目名		言語聴覚障害概論Ⅰ		担当教員	木村 秀生			
基本項目	専 攻	科 目 区 分			単 位 数		履修期間	
	言語聴覚学	障害学総論			必 修	1 単位	前期（30h）	
授業内容の要約		言語聴覚障害の概略と言語聴覚士の職務内容、社会的責任を理解する。						
学修・教育目標 及び到達目標		1. 人間のコミュニケーションの特質が理解できる。 2. 言語聴覚障害学に関する基礎的理解ができる。 3. 医療従事者としての基本的態度を身につける。						
授業の進め方 学修上の助言		座学の他に一部実技も実施する。 テーマに対する積極的な意見交換や意欲的・自主的な学習態度が望まれる。						
授業時間外に必要な学修		前回の復習				必要な時間	30 分以上	
授業計画		1. 話せない・聞こえない・食べられないとはどういうことか 2. 言語聴覚士とは何か（私たちは何を学んで行こうとしているのか） 3. 言語聴覚障害学の歴史（誰が始めたこの仕事） 4. 言語とコミュニケーションについて 5. なぜ声が出るのか（発声発語の話し） 6. なぜ聞こえるのか（聴覚の話し） 7. なぜ食べられるのか（摂食・嚥下の話し） 8. 発達と老化について（人は生まれ、育ち、老いる） 9. 言語聴覚士の臨床 1（人に触れてみよう・口の中を見てみよう・実技） 10. 言語聴覚士の臨床 2（舌圧子・ペンライトを使ってみよう・実技） 11. 言語聴覚士の臨床 3（問診・面談・・・患者さんの気持ち） 12. 言語聴覚士の臨床 4（検査・評価・訓練） 13. チームアプローチ（ひとりでできること・できないこと） 14. 関連法規について（どんな仕事にも法的枠組みがある） 定 期 試 験 15. 総括及びフィードバック（定期試験の解答・解説）						
成績評価方法	項目	□課題・小テスト %		□レポート %		■定期試験 100%		□その他 %
	内 容					講義中に配布する資料 の内容から出題する。		
教科書		著者		タイトル		出版社		発行年
		倉内紀子ほか		「言語聴覚障害総論Ⅰ」		建帛社		2012
参考文献		毛束真知子		「絵でわかる言語障害」		学研		2013
		藤田郁代ほか		「言語聴覚障害学概論」		医学書院		2010
履修要件等								
研究室		1 号館 5 階 第 16 研究室			オフィスアワー	毎週水曜日 14：40～16：10		

		授業形態	講義	開講年次	1 年次
授業科目名	言語聴覚障害概論Ⅱ		担当教員	木村 秀生	
基本項目	専 攻	科 目 区 分		単 位 数	
	言語聴覚学	障害学総論		必 修	1 単位
授業内容の要約	・ 言語聴覚障害および摂食嚥下障害とそのリハビリテーションについての概要を学ぶ。 ・ 言語聴覚障害のある方や家族とどのように関わるか、関連職種とどのように連携するかなど、今後の臨床活動の基本的な考え方を学ぶ。				
学修・教育目標 及び到達目標	1. 言語聴覚障害および摂食嚥下障害とそのリハビリテーションについての概要を理解する。 2. 言語聴覚障害のある方の生活・心理・社会状況について理解する。 3. 臨床活動全般に必要な配慮や基礎的知識を習得する。				
授業の進め方 学修上の助言	・ 言語聴覚学専攻の教員が各自の専門分野を分担して講義する。 ・ 今後、上位学年での更に高度な専門各分野の学習を進めていく為に必要な基礎的知識、基本的視点を確実に習得されることを期待する。				
授業時間外に必要な学修	前回の復習			必要な時間	30 分以上
授業計画	1. 小児聴覚障害 1【廣瀬】 2. 小児聴覚障害 2【廣瀬】 3. 成人聴覚障害 1【馬屋原】 4. 成人聴覚障害 2、視覚聴覚二重障害【馬屋原】 5. 言語発達障害 1（知的障害）【高橋】 6. 言語発達障害 2（LD、AD/HD、広汎性発達障害）【高橋】 7. 言語発達障害 3（脳性麻痺、重複障害）【木村】 8. 拡大・代替コミュニケーション機器・特別支援教育【木村】 9. 構音障害【高橋】 10. 音声障害、吃音【高橋】 11. 嚥下障害 1（成人）【言語聴覚学専攻教員】 12. 嚥下障害 2（小児）【木村】 13. 高次脳機能障害【芦塚】 14. 失語【芦塚】 定 期 試 験 15. 総括及びフィードバック（定期試験の解答・解説）				
成績評価方法	項目	□課題・小テスト %	□レポート %	■定期試験 100%	□その他 %
	内 容			各分野担当教員が分担し各々の講義内容に沿った問題を出題する。	
教科書	著者	タイトル		出版社	発行年
	廣瀬肇監修	「言語聴覚士テキスト 第 2 版」		医歯薬出版	2011
参考文献	毛束真知子	「絵でわかる言語障害」		学研	2002
履修要件等	言語聴覚障害概論Ⅰが履修済みであることが望ましい。				
研究室	1 号館 5 階 第 16 研究室		オフィスアワー	毎週水曜日 9：00～9：30	

				授業形態	演習	開講年次	1 年次
授業科目名		聴力検査法（含演習）		担当教員	馬屋原 邦博		
基本項目	専 攻	科 目 区 分			単 位 数		履修期間
	言語聴覚学	聴覚障害			必 修	1 単位	後期（30h）
授業内容の要約		聴覚障害の障害状況を把握するために臨床で使われている検査法を知り、実際に使えるように技術を身に付ける。					
学修・教育目標 及び到達目標		1. 標準純音聴力検査が実施できる 2. 語音聴力検査が実施できる 3. その他の主な聴覚検査が実施できる					
授業の進め方 学修上の助言		各検査についての講義および検査機器を扱いながら各種検査の実技を行う。					
授業時間外に必要な学修		教科書及び配布資料で復習および次回の範囲の予習をすること				必要な時間	30 分以上
授業計画		1. 耳の構造と機能（言語聴覚士テキスト pp.74～78） 2. オージオメーターとその構造、保守、点検、および取扱い（教科書 pp.36～39） 3. 標準純音聴力検査（気導聴力検査）（教科書 pp.44～49） 4. 標準純音聴力検査（気導聴力検査）（教科書 pp.44～49） 5. 標準純音聴力検査（骨導聴力検査）（教科書 pp.49～52） 6. マスキングについて（教科書 pp.52～56） 7. 標準純音聴力検査（まとめ） 8. 自記オージオメトリー（教科書 pp.57～62） 9. 閾値上聴力検査（SISI）（教科書 pp.62～68） 10. 語音聴力検査（語音了解閾値検査）（教科書 pp.69～80） 11. 語音聴力検査（語音弁別検査）（教科書 pp.80～84） 12. インピーダンス・オージオメトリー（教科書 pp.85～95） 13. 聴性誘発反応—他覚的聴力検査（教科書 pp.110～121） 14. 乳幼児聴力検査（教科書 pp.129～139） 定 期 試 験 15. 総括及びフィードバック（定期試験の解答・解説）					
成績評価方法	項目	■課題・小テスト 20%		□レポート %	■定期試験 80%		□その他 %
	内 容	オージオグラムの作成			筆記試験で授業内容全般についての理解度を評価する。		
教科書		著者	タイトル			出版社	発行年
		立木孝（監修）	「聴覚検査の実際 改訂 4 版」			南山堂	2017
		廣瀬肇（監修）	「言語聴覚士テキスト 第 2 版」			医歯薬出版	2011
参考文献							
履修要件等							
研究室		1 号館 5 階 第 19 研究室		オフィスアワー	毎週水曜日 12：10～13：00		

		授業形態	演習	開講年次	1 年次
授業科目名	臨床ゼミ I (ST)		担当教員	芦塚 あおい / 言語聴覚学専攻教員	
基本項目	専 攻	科 目 区 分		単 位 数	
	言語聴覚学	臨床実習		必 修	1 単位
履修期間	前期 (30h)				
授業内容の要約	「自己表出し、人間関係を作る力」を身につけるため、3 施設の関連施設見学で体験した内容を踏まえて考察し、発表する。				
学修・教育目標 及び到達目標	1. グループ活動において積極的にコミュニケーションをとることができる 2. 適切なプレゼンテーションをすることができる 3. 社会人として及び言語聴覚士としての基本的な振る舞いができる 4. 言語聴覚士の職域を説明することができる				
授業の進め方 学修上の助言	2 年生以降の臨床実習に活かせるように、積極的にグループワークに参画し、学ぶことが望まれる。				
授業時間外に必要な学修	関連施設に関する情報収集など。			必要な時間	60 分以上
授業計画	1. 新入生研修を通じて、学生間のつながりをつくる ① 2. 新入生研修を通じて、学生間のつながりをつくる ② 3. オリエンテーション、自己紹介 4. 集団活動（体育祭の準備等）を通じた学生間連携 5. プレゼン課題の説明【手引き】、見学マナー 6. 集団活動（体育祭）を通じた学生間連携・チームワーク① 7. 集団活動（体育祭）を通じた学生間連携・チームワーク② 8. 発表課題の説明【手引き】、見学マナー 9. 関連施設見学の発表準備 10. 発表の練習 11. 発表 12. 言語聴覚士の職業像（ビデオ視聴及びレポート作成） 13. 発達・コミュニケーションを支援する遊び（講義・演習） 14. グループワーク：発達・コミュニケーションを支援する遊び（演習） 定 期 試 験（期末レポート） 15. 総括及びフィードバック（定期試験の回答・解説）				
成績評価方法	項目	■課題・小テスト 50%	□レポート %	□定期試験 %	■その他 50 %
	内 容	授業内で課題・小テストを行い各演習の達成度を評価する。			関連施設見学の見学態度を評価する（10%）。 関連施設見学後のプレゼンを評価する（40%）。
教科書	著者	タイトル		出版社	発行年
参考文献		関連施設見学の手引き		大阪河崎ハビリテーション大学	2018
	藤田郁代	「言語聴覚障害学概論」		医学書院	2010
履修要件等					
研究室	3 号館 2 階 第 30 研究室(芦塚)		オフィスアワー	各教員 オフィスアワー参照	

		授業形態	演習	開講年次	1 年次
授業科目名	臨床実習指導 I (ST)		担当教員	芦塚 あおい / 言語聴覚学専攻教員	
基本項目	専 攻	科 目 区 分		単 位 数	
	言語聴覚学	臨床実習		必 修	1 単位
	履修期間				
	後期 (30h)				
授業内容の要約	実習に向け、日本語力向上と臨床における観察の技術向上に努める。 ST の役割について理解する。				
学修・教育目標 及び到達目標	1. 基礎的な文章読解および文章表現（まとめ、考察）ができる 2. ST の役割について理解し、臨床における観察結果を記録することができる				
授業の進め方 学修上の助言	半期ごとに 1 と 2 を行う。 2 年生以降の臨床実習を意識して、積極的に取り組むことが望まれる。				
授業時間外に必要な学修	ST の役割についての情報収集など。			必要な時間	60 分以上
授業計画	1. オリエンテーション 2. 文章読解および表現（まとめ・考察）① 3. 文章読解および表現（まとめ・考察）① 添削後再考 4. 文章読解および表現（まとめ・考察）② 5. 文章読解および表現（まとめ・考察）② 添削後再考 6. 文章読解および表現（まとめ・考察）③ 7. 文章読解および表現（まとめ・考察）③ 添削後再考 8. まとめ 9. 臨床における ST の役割について ①（チーム医療の一員としての役割） 10. 臨床における ST の役割について ②（ST と患者との関わり） 11. 臨床における ST の役割について ③（ST と家族や周囲の人との関わり） 12. 臨床における観察と記録の実践 ①（ブローカ失語症例 1） 13. 臨床における観察と記録の実践 ②（ブローカ失語症例 2） 14. 臨床における観察と記録の実践 ③（ウェルニッケ失語症例 1） 15. まとめ				
成績評価方法	項目	■課題・小テスト 50%	■レポート 50 %	□定期試験 %	□その他 %
	内 容	授業内に、課題・小テスト を行い評価する。	グループワークを行 い、課題を評価する。		発表を行い評価する。
教科書	著者	タイトル		出版社	発行年
		特に無し			
参考文献					
履修要件等	この科目の単位を修得しないと、臨床実習概論の履修は認められない。				
研究室	3 号館 2 階 第 30 研究室		オフィスアワー	毎週火曜日 12：10 ～ 13：00	

				授業形態	演習	開講年次	1 年次
授業科目名		臨床実習概論（含演習）		担当教員	芦塚 あおい / 言語聴覚学専攻教員		
基本項目		専 攻	科 目 区 分		単 位 数		履修期間
		言語聴覚学	臨床実習		必 修	1 単位	後期（16h）
授業内容の要約		・ 定型発達を知ることにより、発達に障害を持つ子どもへの支援の在り方を学ぶ。 ・ 小児の発達支援施設における役割、多職種間の連携のあり方を知る。					
学修・教育目標 及び到達目標		1. 定型発達の子どもの成長過程が説明できる 2. 保育所、児童福祉施設の役割を説明することができる 3. 多職種の業務内容を理解し、連携のあり方を説明することができる					
授業の進め方 学修上の助言		参加型の見学実習 これまで習ったことを理解した上で子どもや支援者を観察する。観察するときは、業務の支障にならないように、そして社会人としての態度で臨む。					
授業時間外に必要な学修		保育所見学で実施の出し物の準備、練習など。				必要な時間	60 分以上
授業計画		1. 子どもの発達心理学 1 2. 子どもの発達心理学 2 3. 子どもの発達を支援する福祉制度 4. 保育所の見学・参加（2 歳児） 5. 保育所の見学・参加（3 歳児） 6. 保育所の見学・参加（4 歳児） 7. 児童福祉施設の見学（療育場面） 8. 児童福祉施設の見学（訓練場面） 9. 児童福祉施設の見学（総合）					
成績評価方法	項目	■小テスト 10%		■レポート 50%		□定期試験 %	■その他 40%
	内 容						参加態度
教科書		著者	タイトル			出版社	発行年
参考文献		廣瀬肇監修	「言語聴覚士テキスト 第 2 版」			医歯薬出版	2011
履修要件等							
研究室		3 号館 2 階 第 30 研究室			オフィスアワー	毎週火曜日 12：10 ～ 13：00	